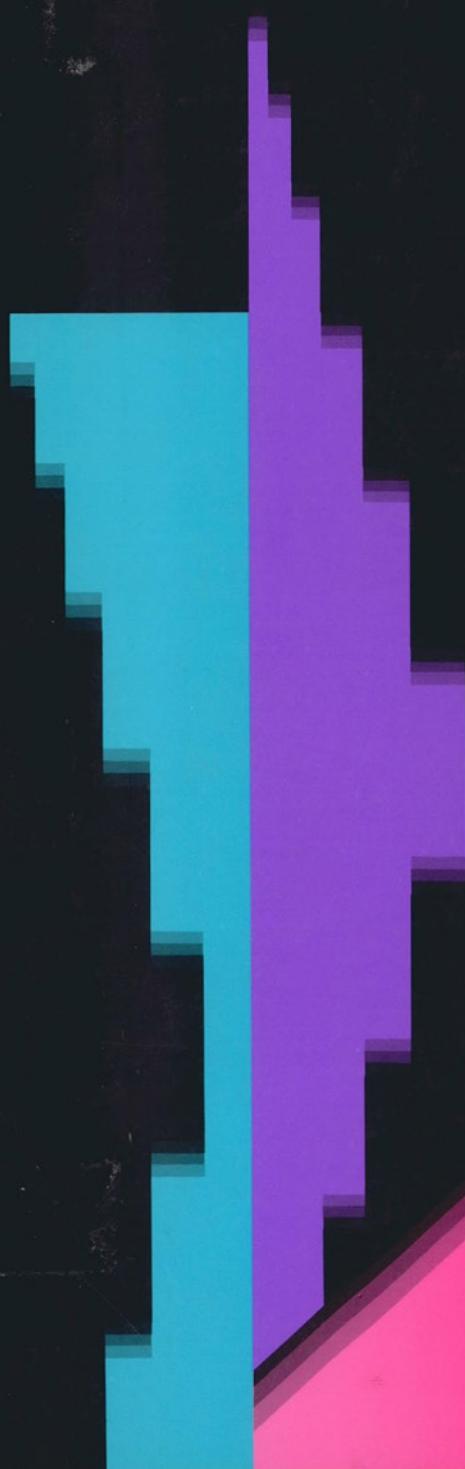


第26回神奈川県美術展



第26回 神奈川県 美術展

●1期展：

日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形

平成2年10月3日(水)－10月14日(日)

●2期展：

工芸・書・写真

平成2年10月17日(水)－10月28日(日)

会場

神奈川県立県民ホール・ギャラリー

主催

神奈川県美術展委員会／神奈川県

小田原市巡回展

平成2年10月30日(火)－11月4日(日)

小田原市中央公民館

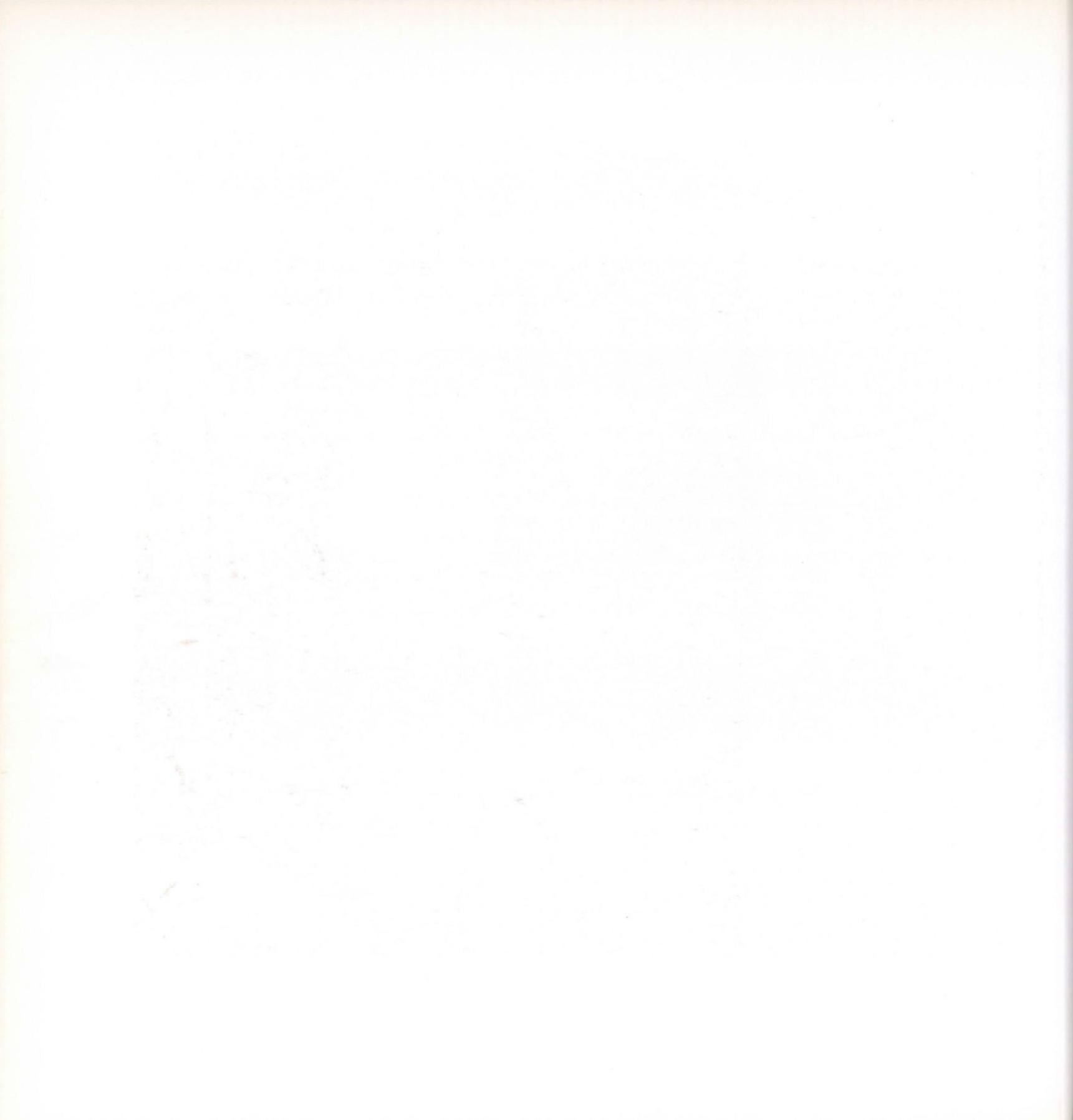
厚木市巡回展

平成2年11月9日(金)－11月14日(水)

厚木市市民ギャラリー

●1期展：日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形







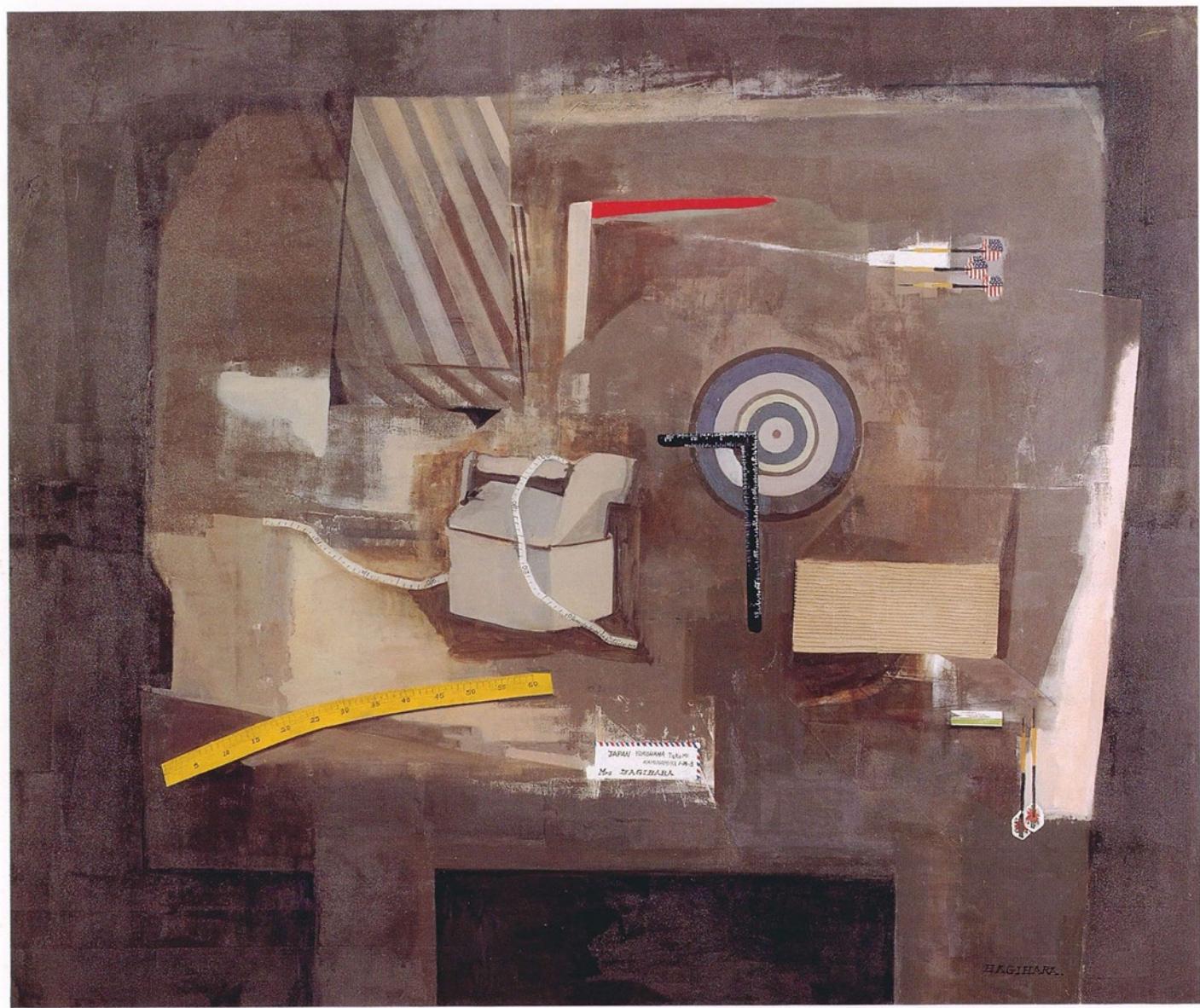
●大賞／洋画『時の化石—豊沃のかたち』……山本 靖久



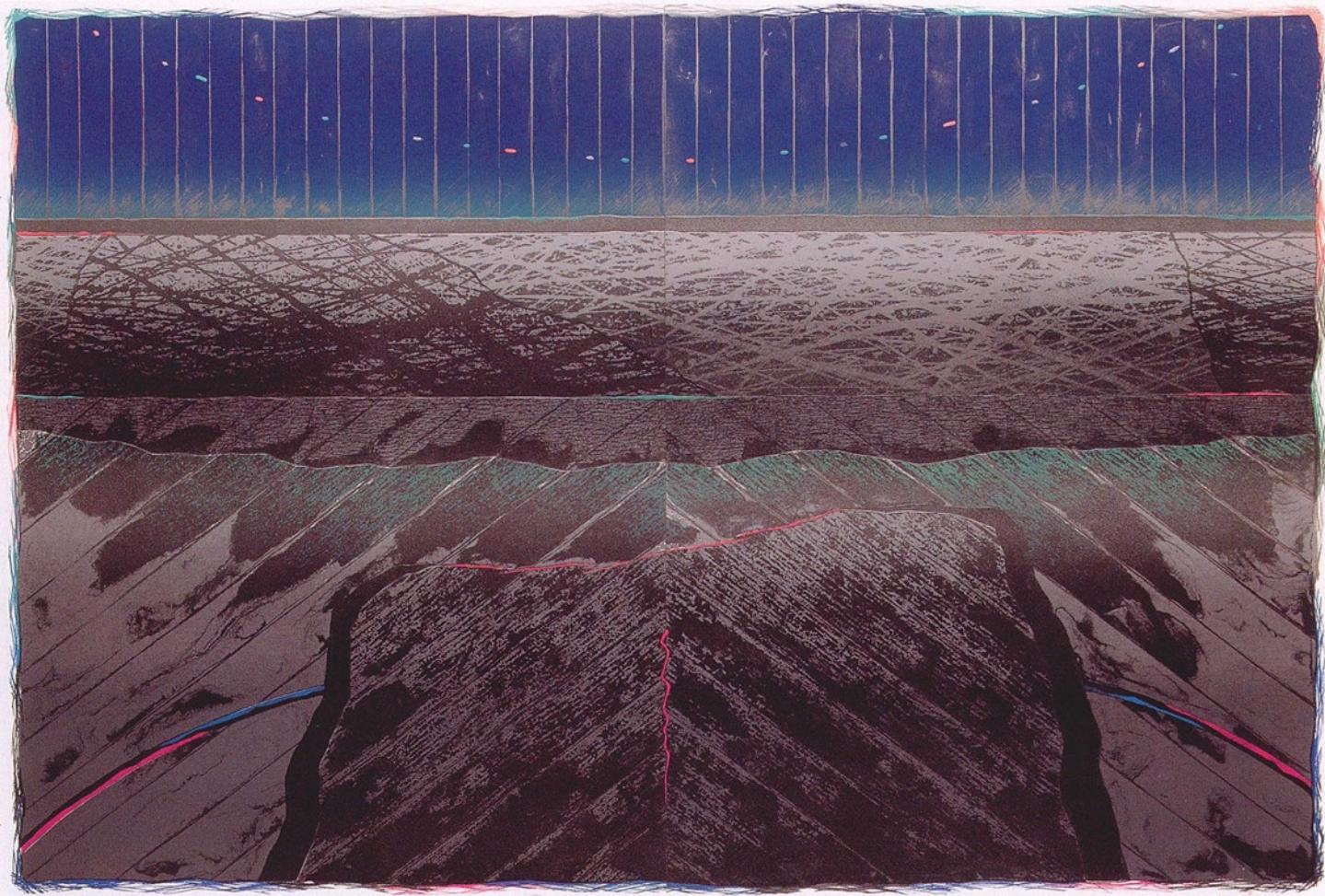
●準大賞／立体造形『SCRAP BOOK』……岡本 穎子



●特選／日本画『號餐』……青木 宏之



●特選／洋画『卓上(Ⅱ)』……萩原 和子



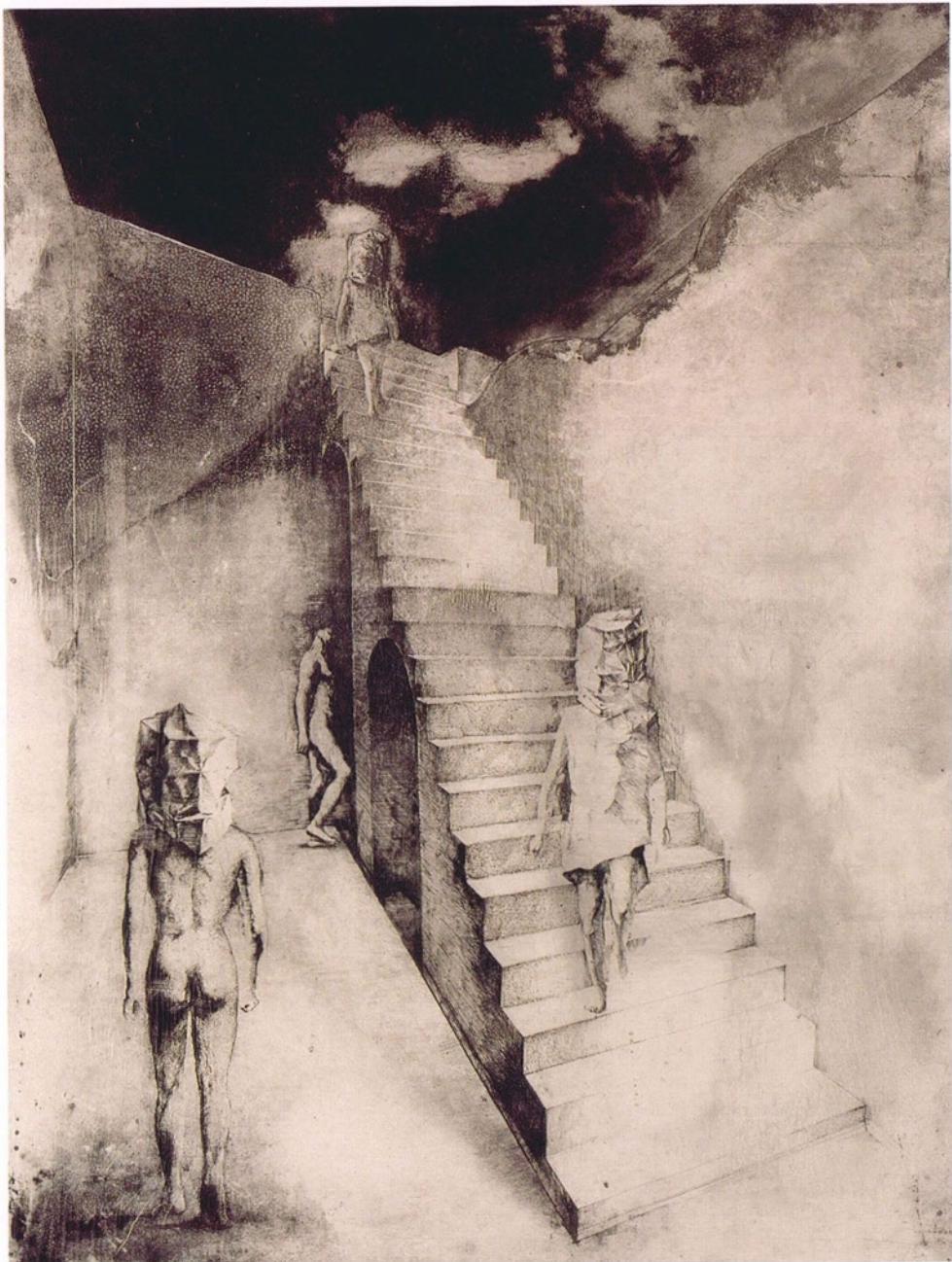
●特選／版画『ELLeMents 1-ER』……小清水量造



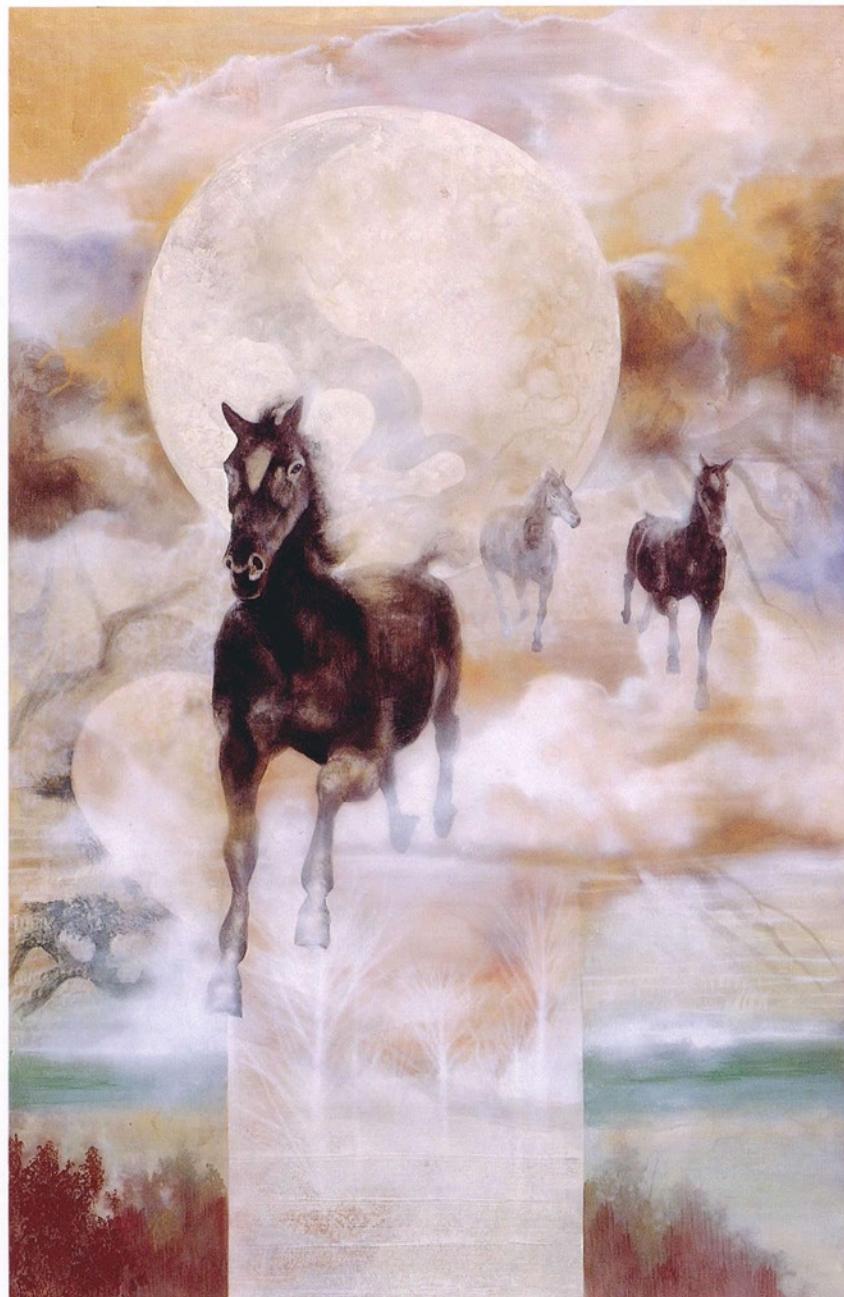
●特選／彫刻『浮雲』……水島 茂



●特選／立体造形『神山』……朴 元姫



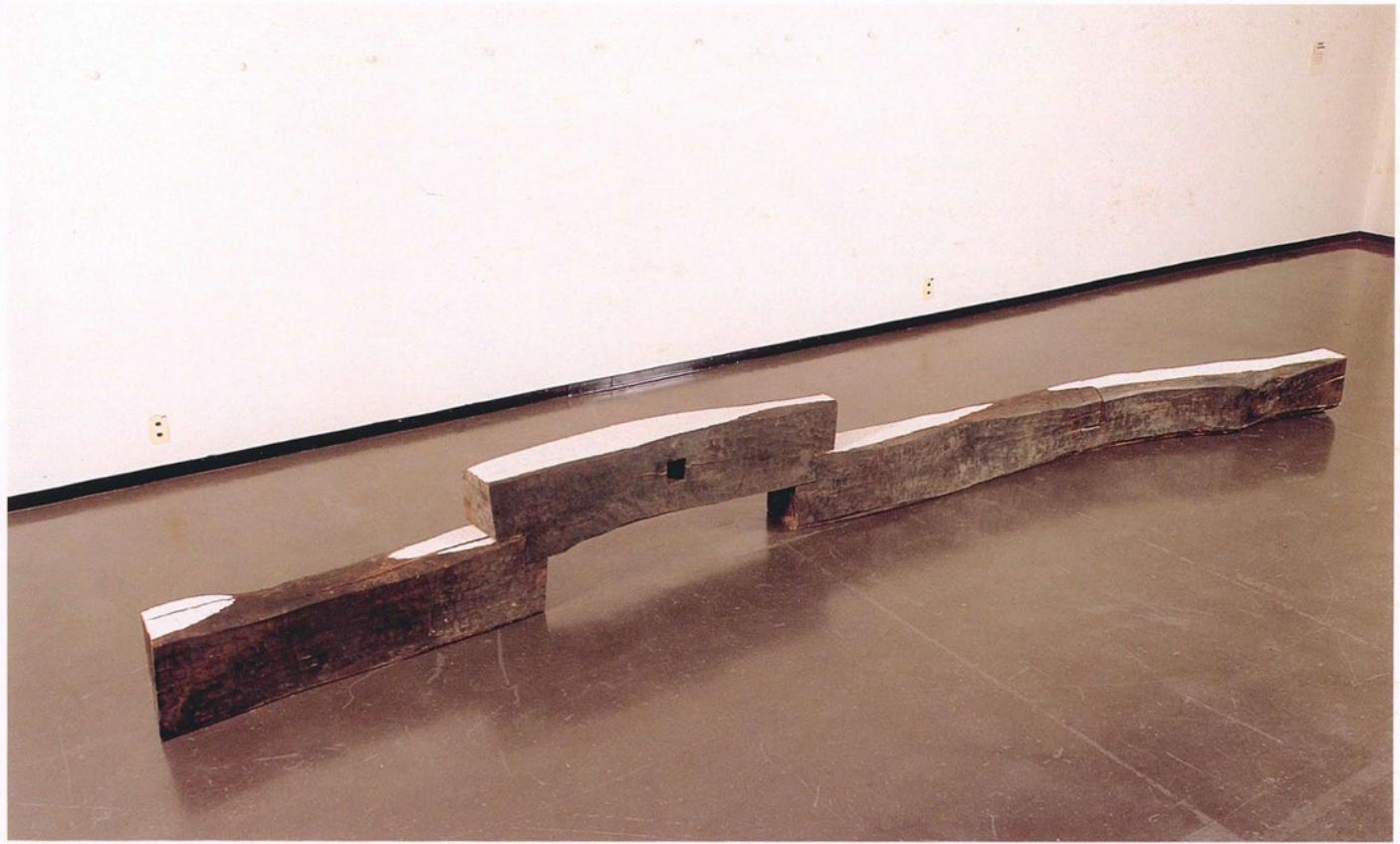
●近代美術館賞／版画『風解』……藤浪理恵子



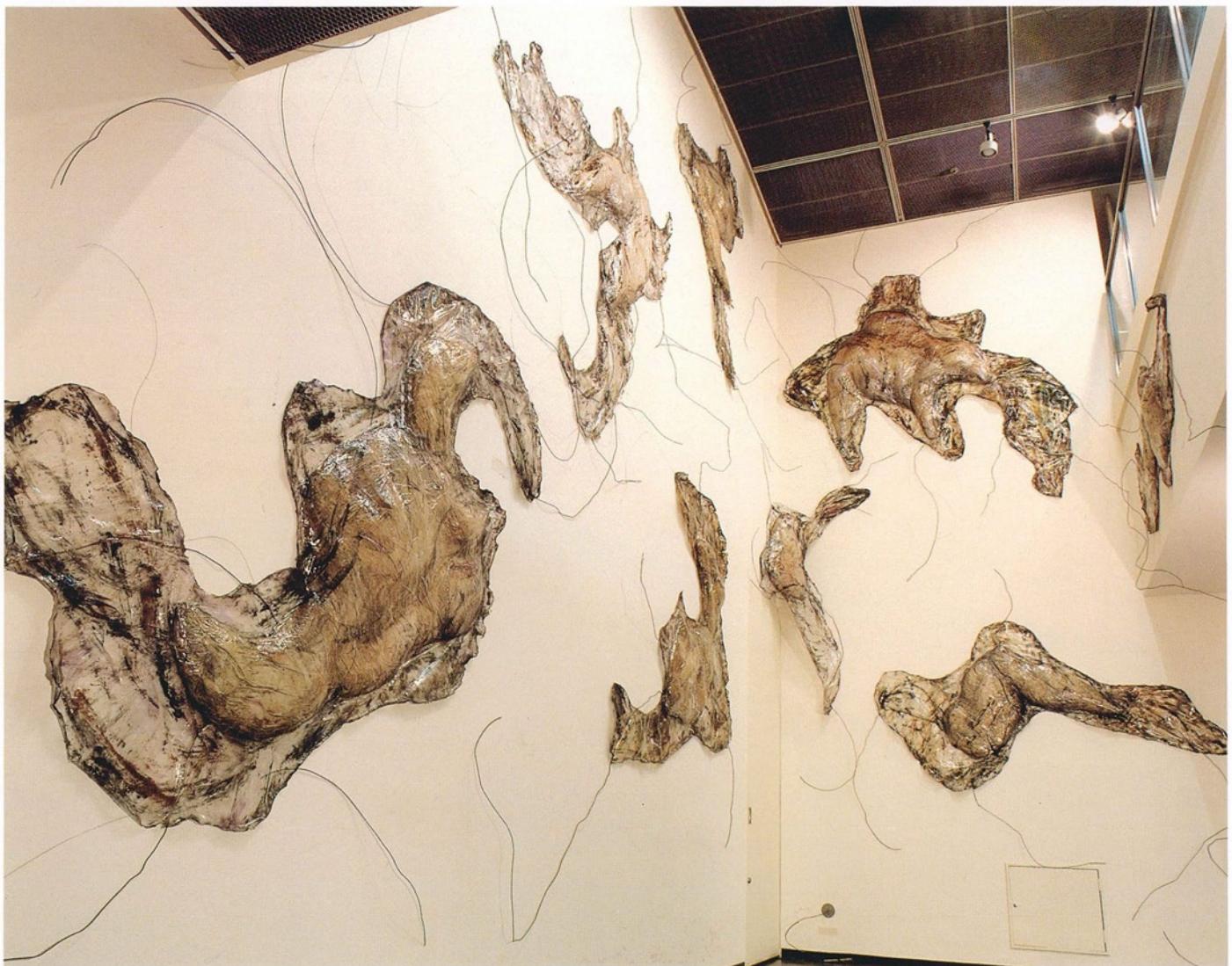
●美術獎学会賞／日本画『空をかける』……斎藤 弥



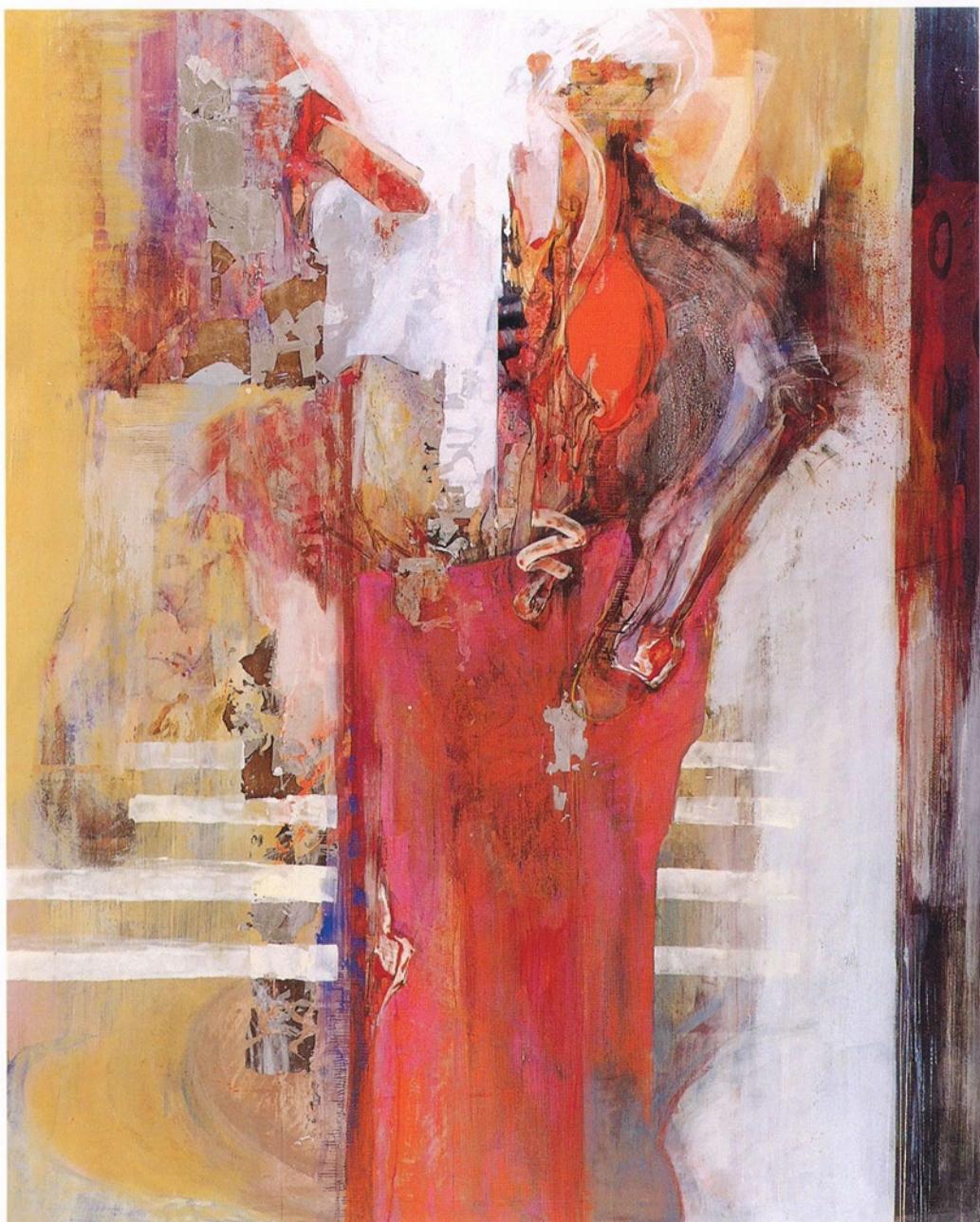
●美術奨学会賞／洋画『アシタニナレバ』……田中 勇



●美術獎学会賞／彫刻『風の道』……小田切秀樹



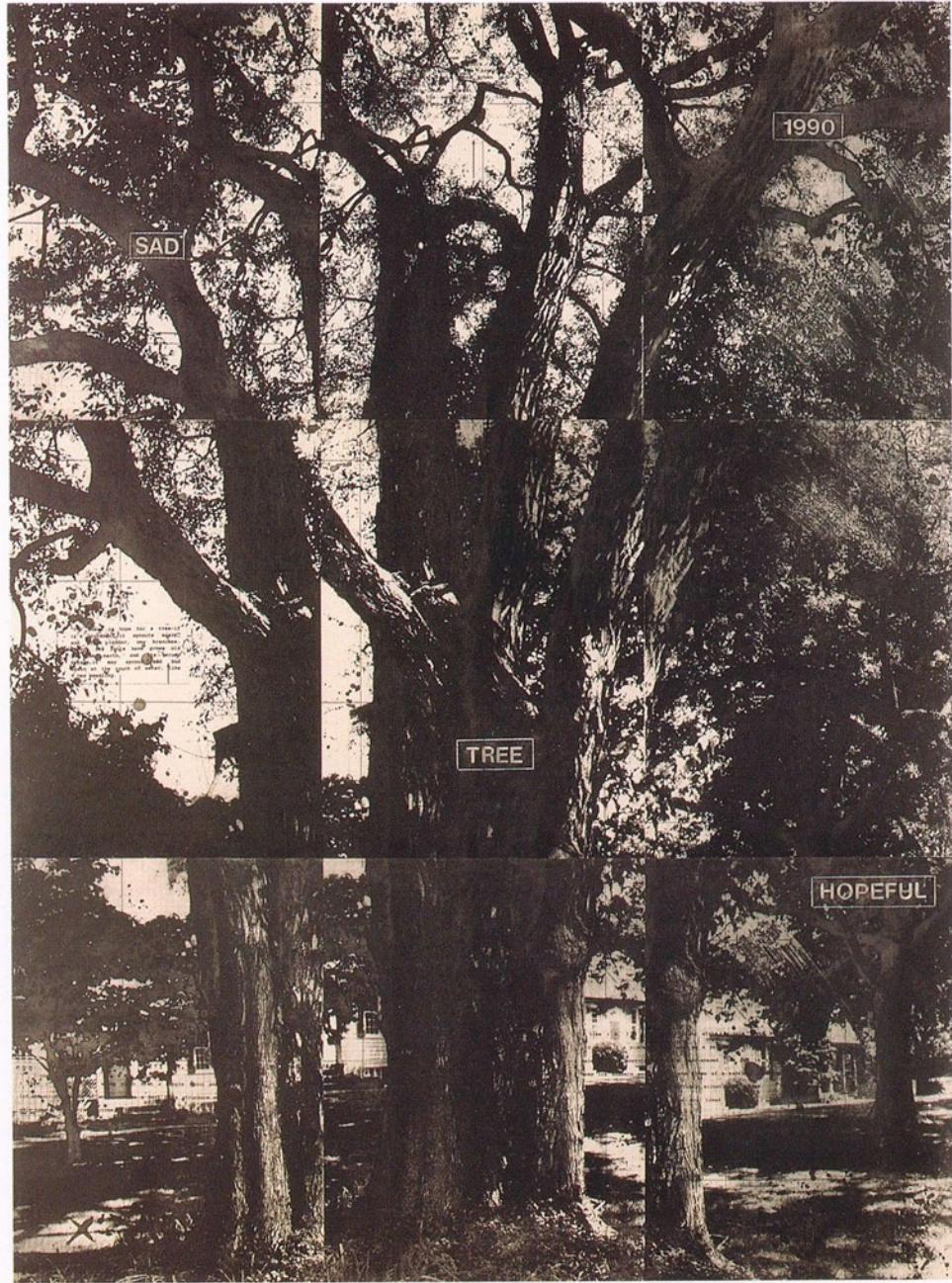
●美術獎学会賞／立体造形『チャガルチ』……劉 明均



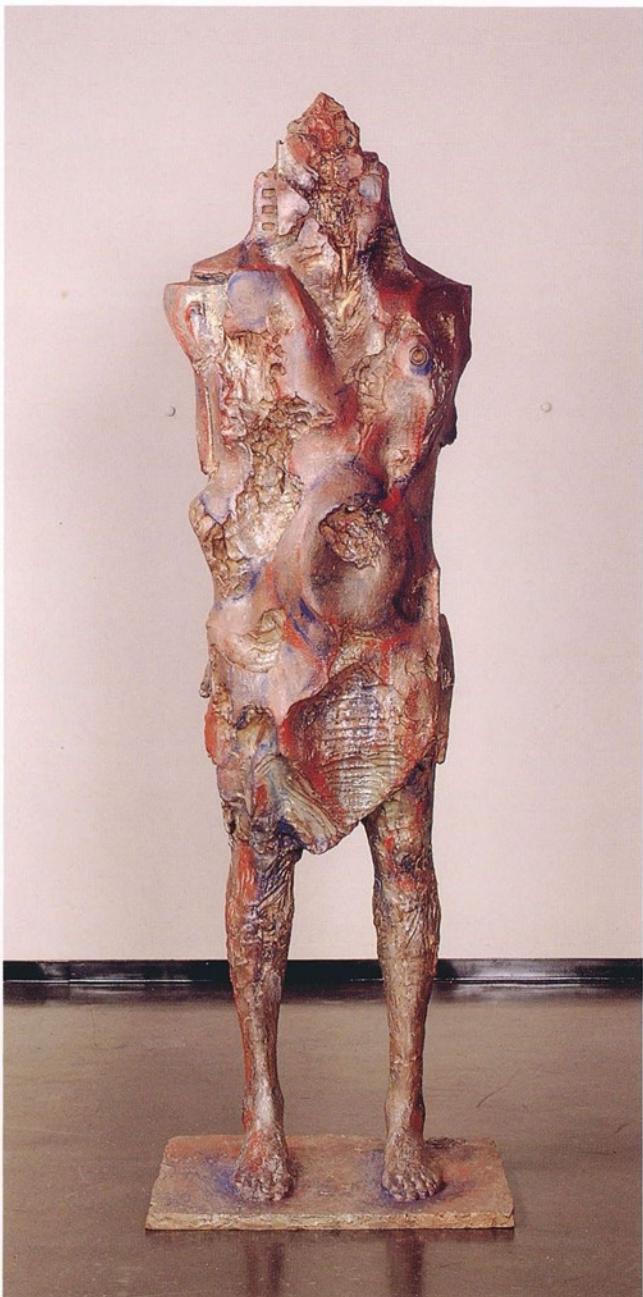
●特別奨励賞／日本画『figure』……樋口 薫



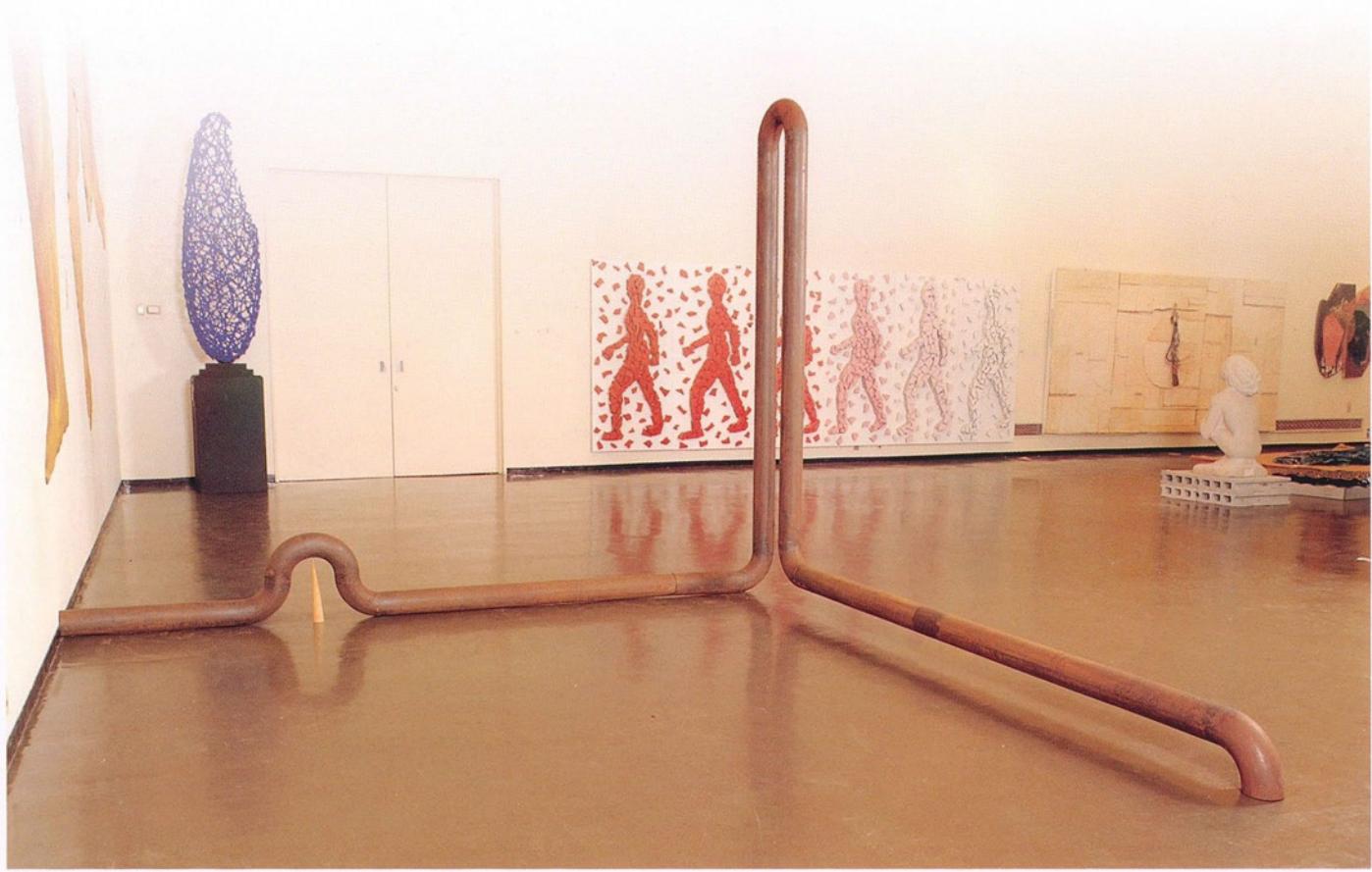
●特別奨励賞／洋画『mind』……吉川 民仁



●特別奨励賞／版画『Tree』……藤田 修



●特別奨励賞／彫刻『ペテン師』……長江 真弥



●特別獎勵賞／立体造形『酸性雨』……柏沼 州良



●県議会議長賞／彫刻『37度1分の海から来たY』……奥野 ゆか

受賞作品目録 [日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形 部門]

- 大 賞 山本 靖久 洋画『時の化石—豊沃のかたち』
- 準 大 賞 岡本 穎子 立体造形『SCRAP BOOK』
- 特 選 青木 宏之 日本画『饕餮』
- 特 選 萩原 和子 洋画『卓上(II)』
- 特 選 小清水量造 版画『ELeMents I-ER』
- 特 選 水島 茂 彫刻『浮雲』
- 特 選 朴 元姫 立体造形『神山』
- 県立近代美術館賞 藤浪理恵子 版画『風解』
- 美術奨学会賞 斎藤 弥 日本画『空をかける』
- 美術奨学会賞 田中 勇 洋画『アシタニナレバ』
- 美術奨学会賞 小田切秀樹 彫刻『風の道』
- 美術奨学会賞 劉 明均 立体造形『チャガルチ』
- 特別奨励賞 樋口 薫 日本画『figure』
- 特別奨励賞 吉川民仁 洋画『mind』
- 特別奨励賞 藤田 修 版画『Tree』
- 特別奨励賞 長江眞弥 彫刻『ペテン師』
- 特別奨励賞 栢沼州良 立体造形『酸性雨』
- 県議会議長賞 奥野 ゆか 彫刻『37度1分の海から来たY』

美術奨学会賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として設立された財団法人神奈川県美術奨学会から、神奈川県美術展に出品した優秀作案に給付される奨学生です。
特別奨励賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として御はまきん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される賞です。

入選作品目録

[日本画]

- 上原一雄　　『伊根浦醇風』
村越由子　　『生の還元』
加藤敏夫　　『翔ぶ物体』
品川成明　　『緑韻』
浅葉雅子　　『草笛が聞こえる』
佐々木慧子　　『煉瓦饗宴』
桶谷純子　　『病める木』
早坂理香　　『日暮れ』
鈴木國男　　『“J”が自分を彩る方法(II)』
吉田みどり　　『華』
青木治子　　『スタジオ』
鈴木教子　　『束の間の晴天』
石崎昭亜　　『幻視』
勾坂均　　『鉄塔』
小野友三　　『熱帯植物園』
西村智也子　　『TATU・SHŪ II』
菅家知音　　『かたち I』
土屋弘彰　　『帰り道』
長部靖　　『渾沌する溟水の会話』
千々松朋子　　『まがり道』
鶴田耕治　　『遙刻夢』
加藤正二郎　　『果実』

[洋画]

- 横山政明　　『Tell me why』
亀鶴光郎　　『永遠の愛の結婚式』
仲圭子　　『上昇気運でパラダイス』
清水太朗　　『構成(I)』
井上征彦　　『裏地』
宮崎郁子　　『薄曇』
横山将二　　『作品1990-15』
松井廣志　　『箱根十国峠秋 A』
肥沼守　　『♀♂・2』
犬塚聰子　　『Air Pool VI』
加藤進　　『チャクラ』
坂口久代　　『ファンタジーII』
内田尚子　　『生命の内部で(II)』
横山博志　　『ラーメンを食べる男』
臼井恵之輔　　『FU90-7』
藤村弘子　　『RUIN III』
小山よしえ　　『今、私は2』
石井誠　　『^{ei si ar}詠時感其之一』
佐々木美直子　　『幻想華園III』
大久保宏美　　『回想』
護嶋春水　　『天の川』
中山智介　　『回想の街』
片岡世喜　　『そして、今』
葉月弘生　　『手慣れた設計ミス』
斎藤由美　　『星霜「うたかた」』
水村繁　　『刻まれる空間(船)2』
平田英子　　『祭りのあと』
小野皓一　　『Destroying Squares on Canvas』
八木哲平　　『生成I』
公文淳子　　『森の博物誌 I』
藤岡直意　　『木や石の息吹き』

[版画]

河 村 順 明 「浜との別離」
青 木 道 夫 「物思う頃に、B」
菱 刈 俊 作 「メルカトルの余白に」
酒 井 実 通 男 「ヴィーナス祭の前晚—拉典哀歌より」
金 子 徹 「レリーフ(コンポジション)」
荒 井 裕 子 「存在理由」
古 道 健 治 「夢」
田 中 善 隆 「Lady B」
永 島 省 吾 「默示録「バベル」」
熊 田 至 「記 '90 溺れ沼」
出 口 佳 子 「大地 No.1」
中 村 智 恵 美 「SHADOW DANCE」
藤 岡 慎 「受信装置—空より—」
根 本 宏 美 「矩—II」
犬 飼 正 「記号するブルーマリン(A)」
雙 田 実 「午後の法廷」
田 中 木 芽 「記憶の皮膜-90(B)」
大 久 保 俊 夫 「陥没する拡声器」
仲 野 泰 生 「庭・思考・展開 I」
今 川 保 充 「風景」
岸 上 嘉 世 子 「'90MM2丁目2番地」
長 岡 一 豊 「鉄棒のある風景」
角 田 た け 子 「痕蹟 '90.6」
河 上 明 彦 「Coral Dancing」
永 野 優 子 「Land scape I」

橋 本 和 子 「靜」
福 山 青 桃 「森の記憶—2」
藤 原 百 合 谷 「自動演奏装置 II」
李 誠 九 「Untitled on title (90-07-C) Imagination」
小 林 守 「回顧人間」
小 山 榮 「夜から」
安 原 典 子 「Dream of Lions II」
高 橋 宏 光 「Yoshitsune-A」
西 川 洋 一 郎 「PREMONITION '9018 INCUBATION(羽化)」
中 込 洋 子 「都市の記憶90-III 墓標について」
李 起 宰 「韓半島—分断の意味」
寺 田 有 恒 「静かなる時空」
山 口 忠 一 「砂工場」
辻 忍 「樹を映す」
鈴 木 道 子 「海神(くじら)2」
飯 塚 正 彦 「ミルク売り」
高 桑 一 雄 「中仙道宿場(その1)(その2)(その3)」
高 橋 誠 「The King and I , No.3」
中 村 桂 子 「link」
松 野 登 美 子 「Pastoral-Poem II」
工 藤 忠 孝 「町 I」
富 田 辰 男 「Faraway」
宮 本 昌 恵 「聖なる職務(聴罪師)」
雙 田 実 「河—(II)」
田 里 美 和 「C'est fini」

[彫刻]

竹村 芳樹 「サラリーマンの肖像」
酒井 道久 「ベースラインV」
遠藤 信也 「トルソ」
高井 正二 「Festa」
村山 哲 「青年像」
松浦 良 「しっぽ」
片瀬起一郎 「森の声」
阿部 佳明 「MEDITATION」
安部 直子 「軌跡」
村田 良樹 「レイ」

[立体造形]

小宮彌栄子 「巨人界より—「トベ」」
赤岡 正行 「腐食幻影'90」
大北利根子 「浦島太郎」
久松 共子 「ALICE IS WALKING」
線 幸子 「Homage to The Fragil I」
線 幸子 「Homage to The Fragil II」
井口 貴夫 「#900826」
田中太賀志 「一枝の話について I」
田通 栄一 「Steel layer」
高橋 幸子 「作品90「森へ」」
石井 節子 「TOWNESS—I」
石井 節子 「TOWNESS—II」
土志田由紀 「Felt '90」
大塩 英夫 「Tention & gravitation(Breathe of Wind)」
鈴木 朝湖 「マンダラー」
山本かず子 「無題」

審査経過

日本画

●搬入点数63点(53人) ●入選点数25点(25人)

本年度の日本画の出品点数は63点。昨年度の56点よりやゝ多い。昨年は全国公募でかえって少なく、県内公募で増員して居る。出品者の年代はやはり20代30代が多く、70代60代50代の出品者もあるがなかなか県展の今日的日本画造形感覚からは程遠く交じり合うことは大変にむつかしいようである。従って毎年、大作の若手作家の作品が結果多くは選出され一つの活気をつくっている現状ではある。さて今年はスムースに審査が進み、例年より手間取らない進行のよさを感じつゝ、25点の入選が決まり、賞候補の選出も、いつもの如く全員一致と進んだ。先ず最初に、素朴な若々しい努力作、「草笛がきこえてくる」浅葉雅子が初々しく決まり、その後、次々に決まった。「空をかける」斎藤弥の技巧的なエアスプレイなどデザイン風に使用していて問題になったが新鮮味が採られた。「Figure」樋口薰はえのぐのつきもよく、色彩もまずまずだった。

象を扱った心象風景、「青木宏之」の大膽と言うか多少型やぶりだが、若さが買われた4点は決まった。

さて、落選画にもよいものがなかったわけではない。他の入選作よりも意欲の人たちあり、今一步の精進。今年はこまかく記憶を少し書くと、例えば、しまうまを描いた作、「月館京子」も意あまってか元気よい。方向性さえこれからまちがえず勉強すればとおもう。「鈴木國男」もいつもながら今一步のところ。それは今一つの魅力が大切なのだ。——「勾坂均」の鉄塔と言う七夕を描いた絵は魅力もあるが、弱いのだ…。もう少し私共をひきつけてほしい。「土屋弘彰」新入選ながら惹かれる画面だった。落ち着いたしんみりした詩が流れた…。「鈴木教子」、「鶴田耕治」なども部分的に来年に又夢を持たしているようであった。又、将来を期待して…。もう少し新しく、ワンパターンでなくして、冒険をしたらとおもう。全体に言えることは結局その辺だ。以上で終りとしたい。

近藤 弘明

洋画

●搬入点数308点(176人) ●入選点数60点(60人)

全般的におとなしい作品が多く、新しい息吹に欠ける印象をうけました。

技術的な面ではたしかに水準をこえた作品も少なくありませんでしたが、無難にまとめたということでマンネリにおちいっている、そんな気がしました。

賞候補に残った作品もどことなくおだやかな表現となっていて、その分だけ大胆な試みに欠けていると思いました。

いささか悲観的な意見となりましたが、ある種の時代のかわりにありがちな省察が、おそらく平穏な世界を描かせているのかもしれません。小さくまとまった作品が多く出品されていたのも、そうしたことのあらわれかもしれません。次回を期待したい。

酒井 忠康

版画

● 振入点数89点(42人) ● 入選点数28点(28人)

版画部門の審査は、多数決を避け、審査員全員の意見の出し合いによって進行した。

まず、出品者別に作品を見ながら、保留作品と選外作品とに分ける第1回目の審査を行い、残った約半数の作品を会場に並べて、その中からさらに選外とするものを外して第2回目の審査とし、最終的に残った28点の作品を入選作として決定した。

賞候補作品としては、藤田修「Tree」、小清水量造「Elements I-ER」、小山榮「夜から」、藤浪理恵子「風解」の4点が選ばれることになったが、いずれの作品にも共通して言えることは、すでに表現内容と手法に自らのスタイルを獲得していることによる安定感と、画面作りの上手さが、他の作品に比べて抜きんでていたということになるだろうか。さらなる洗練と充実が期待できる人達である。

審査員相互の際立った意見の対立はなく、スムーズな流れのうちに審査は終了したが、審査員の顔ぶれが異っていても、おそらくは同じ作品が入選したに違いないという安堵感とあいまって、物議をかもすような作品に出会えなかったさみしさを感じたのも事実である。

ここ数年、版画の概念が急速に変化しつつあるように思われるが、その変化の大きなうねりに触れ得なかったもどかしさは、出品作全体の技術的安定度の高さと無縁ではないようと思われる。版画の新しい指標となるような作品は、既成の安全なもの考え方や、定形化した制作システムの中から生まれてくることはもうないだろうし、それはまたコンクールの在り方自体にも言えることではないだろうか。

ともあれ審査を終って一番気にかかったことは、版画を作る多くの人達が、掛値なしに版画を愛し、信じているのだろうかという極めて単純な疑問であった。総じて自分の造形とイメージと技法を信頼し、それに対して一所懸命になろうとしている気持はよく理解できるが、個人を越えて版画を、版画という世界を愛し、今そこに参加しているのだという熱気がなぜか強く伝わってこない。時代そのものの醒めた空気の反映なのかもしれないが、表現衝動の奥深いところで、これから版画の可能性への疑いを拭いきれないのではないかという気もする。

版画への愛情と熱意さえ見せてくれるならば、どのような考え方、手段で版画を作り、また壊しても構わないと思う。美術にはや垣根などはないのだから、残るは愛情を、ただ過剰な愛情を版画の世界にそいでほしいと願うや切である。

柄澤 齋

彫刻

●搬入点数25点(23人) ●入選点数14点(14人)

昨年の記念展は県外作家を含めた公募であった。そのあとだけに、昨年に比べて今年は搬入点数がわずかに減った。而し、かつてわが国の近代化への玄関口であり、先きに近代文化の名乗りをあげた伝統は、住む人々の中に生き、その香りが、そこはかとなく作品群からも感ずることが出来る。

特に1950年代以降の美術界の変容は最近特に急速で激しくなって来たように思われるが、なかでも彫刻は、たえず触手を四方に伸ばして世界の情況を探っているようだ。若い作家達はそれらの情報に敏感に反応しながら制作をする。

(近頃の彫刻に付けられた題名は、作品主題とかかわりの無いものもあるが……。)

特選になった水島茂氏の「浮雲」は、楠材を使った木彫で、付けられた題名からうかゞえば、浮雲の流動の変化に興味をもった点、新しい造型主題と思われた。無限に変貌する雲の型態は夢想に似ているが、仕事ぶりは目的に向って慎重にすゝめられて、気圧による変化を感じさせる中心部から、左右に押し出されたり、浮き上ったり、方向を変えたりする型態に細心の注意がはらわれていた。

小田切秀樹氏の「風の道」は、古い日本家屋の中で見かけた梁を再生したものか?

黒っぽい原材の上面に丸ノミの跡を残し、あざやかな白に塗られて、風道を感じさせている。原材の中心近くに切り込んだ接合部があり、その切り込みに合せて乗せた共木が彫刻の構築の原典を思わせるが、或いは昔の人の智恵によって生れた対震構造であろうか?

奥野ゆかさんは「37度1分から来たY」。大理石を女性らしい感性で軟かなものとして見せている。

長江 錄弥

立体造形

●搬入点数38点(27人) ●入選点数20点(18人)

公募展は受け手—鑑賞者にとって、これは送り手—作家にとてもそうであるのだが、さまざまな感性と思想のぶつかりあう場と思える。特定のテーマなり企画者の切口といった危険な前提を持たないが故に、美術という漠然とした大きな括弧で括るしかないここには、作品が持つ背景をひとつひとつ丹念に探る楽しみがある。思い思いの問い合わせから、作られ提出された料理が並ぶ混沌状態の食卓から、思考錯誤を繰り返すことにより、何を選び出しどのように食するかを、考え知覚する直接的で開放された生々しい現場とも言える。が、その食卓での晚餐は、終りのない経験の積み重ねであるともいえ、いつでもこの素敵なお経験は表層を滑り、晚餐後も昇華することなくちゅうぶらりんのまま、現実と非現実の狭間で、語られることなく意味を持てない存在としてただ置かれこととなる。受け手のなかで、語る切掛が生じて、受信の態勢が整い、取り出され、対象として意識された視線を作品が浴び、受け手によってふたたびその始まりから生産され作品となるには、かなりの時間と距離の蓄積が必要だ。したがって再生産する時間のないままに、見えない世界を残して審査という作業を行なうのは、いつだって、曖昧さと矛盾を多く残すことになるだろう。

38点の作品が、立体造形部門に集まり、今回はそのなかから20点の作品を選んだ。応募作品のどれもが、大まかな意味で、美術の水準に達していることで、審査は順調に進んだ。力作、労作も多く、日常的に時間をつくることに割いていることが、作品の丁寧な表現からも伺うことができた。また実際に作り、そして実在させる技術にも、見るべきもの、見習うべきものがかなりあった。しかし残念なことは、時代とともにある作品がかなり多かったことだ。1990年という時代に作らされているとでも言おうか。

そんななかで作品としてあり続けることが、時代と関係無しに可能と思える良質な作品が、4人の審査員のなかで、それほど食い違いもなく選ばれた。入賞作品の4点、「SCRAP BOOK」、「神山」、「チャガルチ」、「酸性雨」は、どれもが表現を急がないで、今の時間を巧みに捕らえ、自分の物語に、非常に心を開いているように思え、印象的だった。残念ながら入賞にはならなかったが、「巨人界より一トベ」も独自の感性から発する魅力ある視野が伺え、心地よい作品であったことを付け加えさせていただく。

海老塚耕一

●2期展：工芸・書・写真





●大賞／工芸『遙かなる亜熱帯』……高橋あづま

落葉は深く
種子の謂へば微かにとかのく
佐藤憲の詩

●準大賞／書『思いおく心の底の』……糟須海夏子



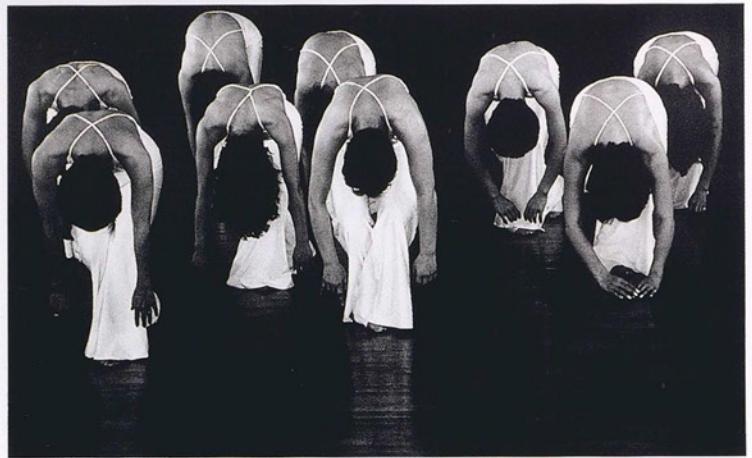
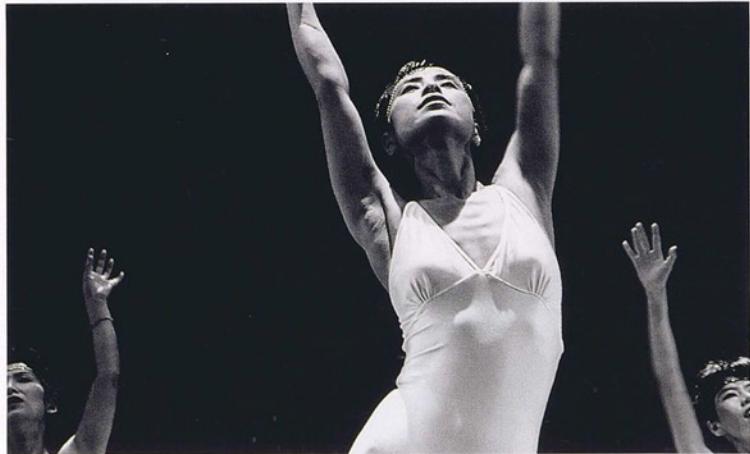
●準大賞／写真『霧笛の港町3枚組』……山本潤一郎



●特選／工芸『彩泥鉢』……人見 啓一

零落橫庭一杯酒。主人未驚。客長生。主父遠。因不歸。——家人折故山。
剗却青闌馬周幕。——是。客。在。地。老。參。人。識。空。將。歲。而。行。書。已。
鶴猶讀。金。雲。飛。首。連。頭。相。得。惟。惟。一。聲。——天下口。不。年。事。常。如。雪。難。應。重。
些。鳴。呢。李。長。吉。詩。致。酒。行。林。董。書。

●特選／書『李長吉詩』……鎌田 栄処



●特選／写真『華の舞3枚組』……古郡 和敏



●美術獎学会賞／工芸『秋芳』……沢口 信子



●美術獎学会賞／工芸『小さき華』……亀井ひでみ

飲酒
酒入豪情
酒醉人
酒後事
酒家事
酒中趣
酒中樂
酒中趣
酒中樂

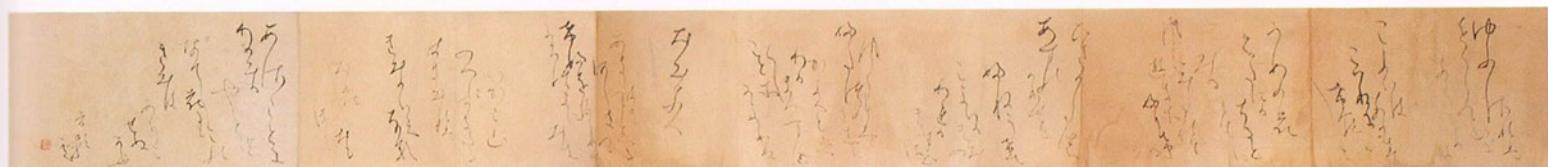
●美術獎学会賞／書『飲酒』……落合 正峰

感暮寒亦行
征人有常期
驛我鄉樂道
彼道路若酒闌
別賓親馬車山
都岐我馬力未
痛已越山與阪
回頭望高城
落日垂樹深
既少安謀生復多食途達寒入孰不爲止也
亦苦志去笑何勞
高青邱詩始發南門晚行道中 華舟書

●美術獎学会賞／書『高青邱の詩』……菊地 華舟



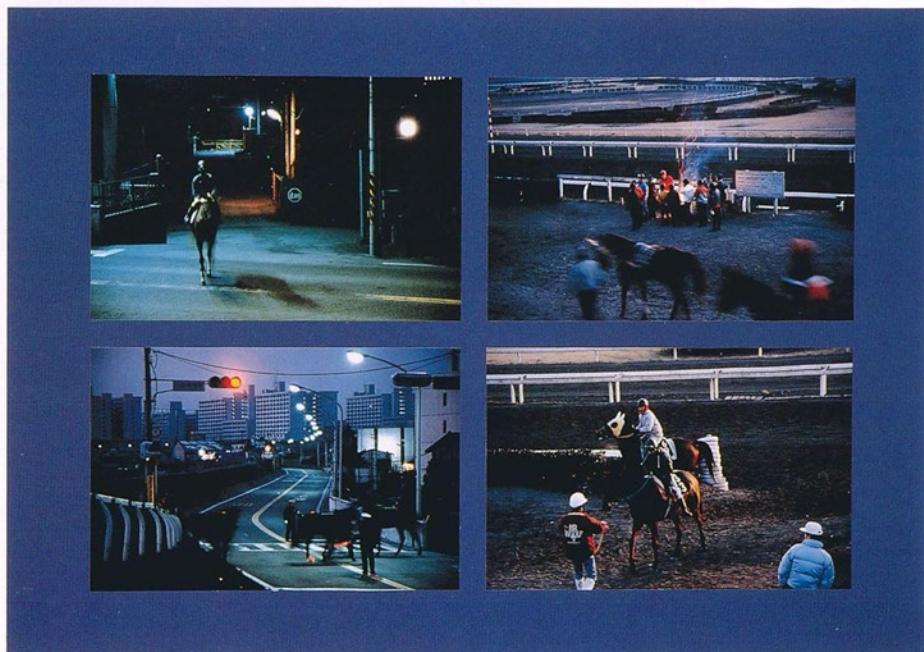
●美術奨学会賞／工芸『35年のあかし』……八重森千賀



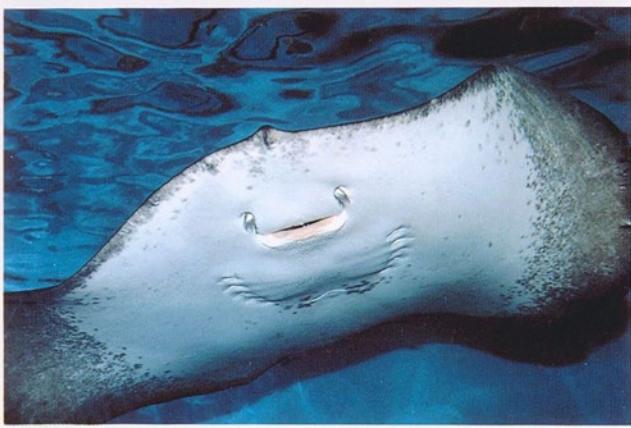
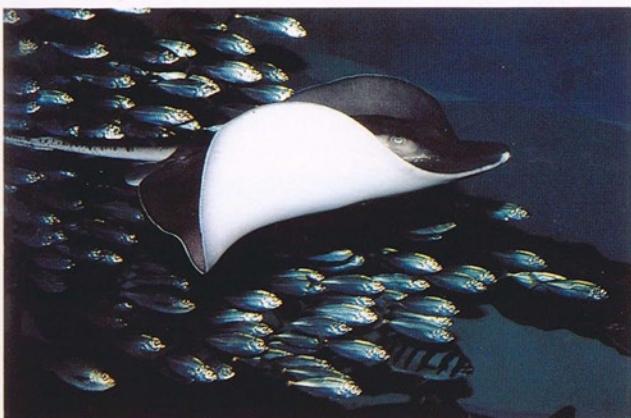
●美術奨学会賞／書『万葉集』……黒田 香影



●美術奨学会賞／写真『夕映えの山』……中川 英治



●美術奨学会賞／写真『暁の調教』……岩下美代子



●美術奨学会賞／写真『鱧・君臨2枚組』……村山 章



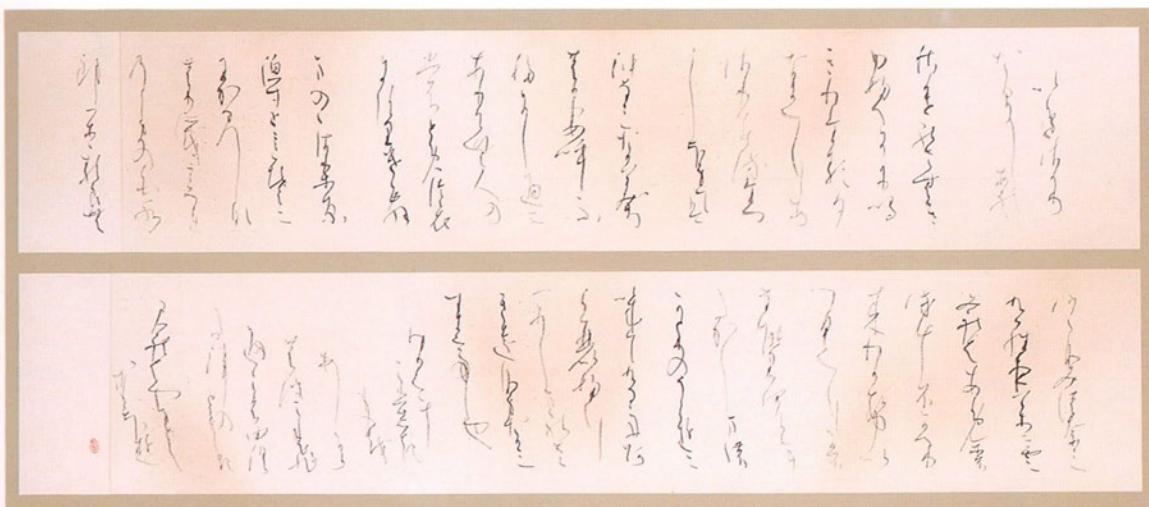
●美術奨学会賞／写真『祭り日の雨3枚組』……福井 清



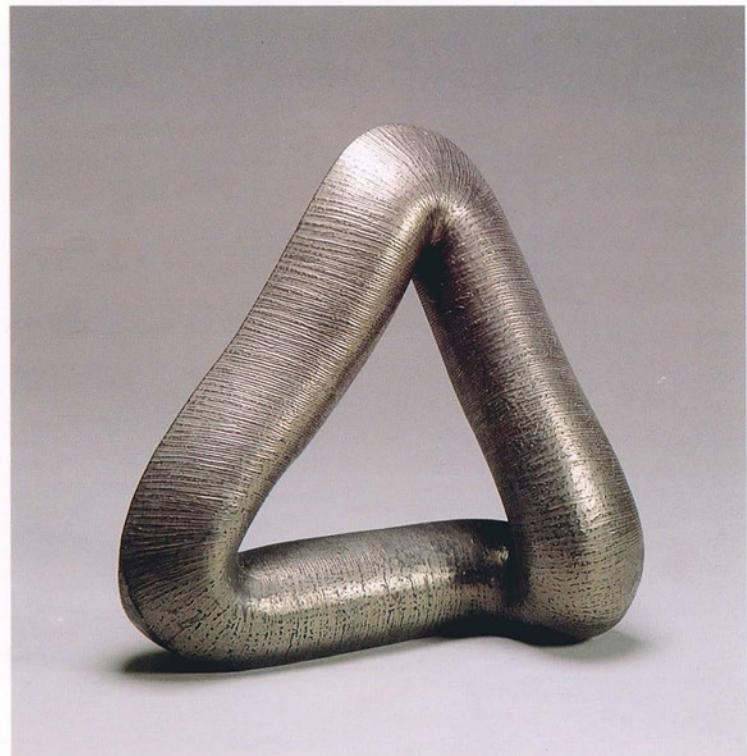
●特別奨励賞／工芸『乾漆変わり塗り盛鉢』……岩崎 忠夫



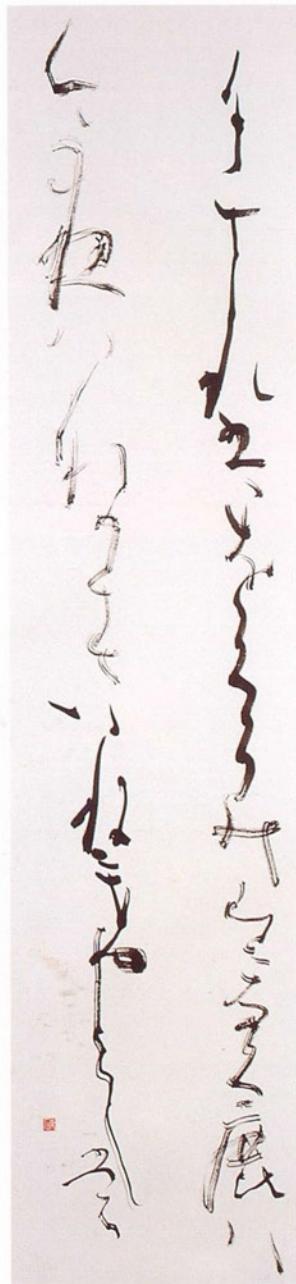
●特別奨励賞／工芸『Lip』……堀江 明子



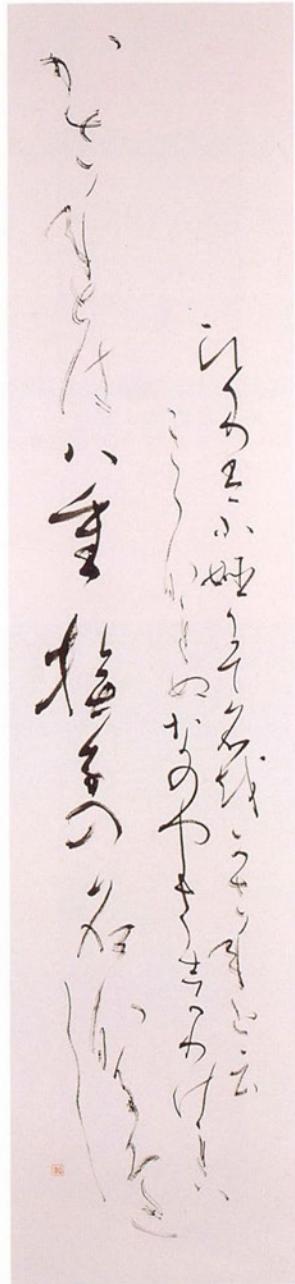
●特別奨励賞／書『万葉旅の歌』……佐藤 秋翠



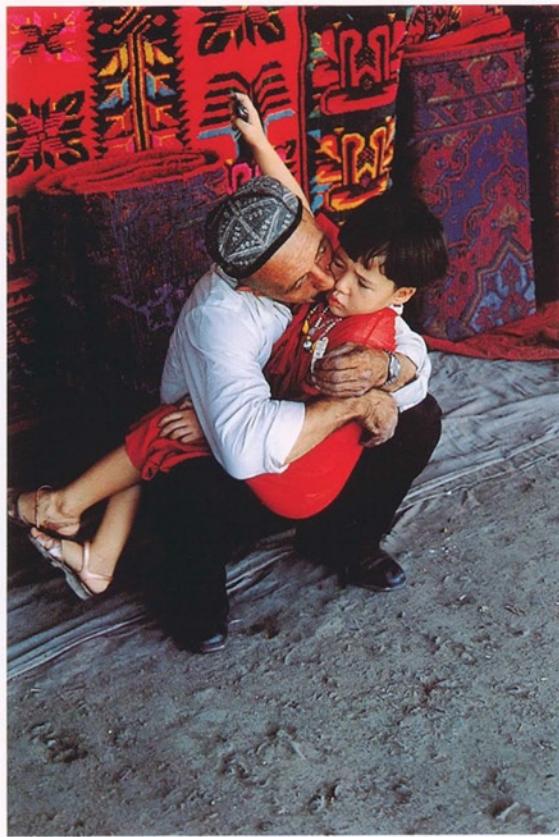
●特別奨励賞／工芸『WARP』……中野 幸男



●特別奨励賞／書『鹿』……棧敷 東石



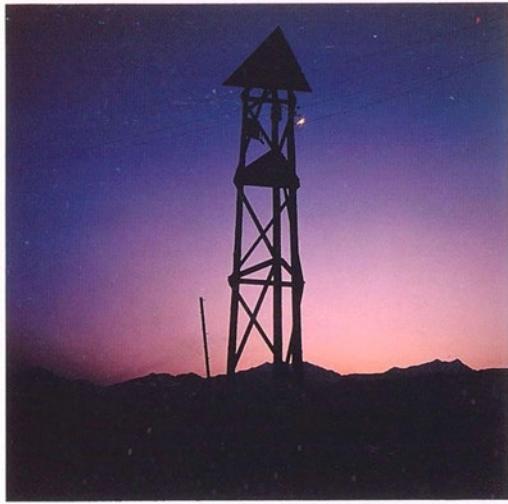
●特別奨励賞／書『かさね(曾良)』……横山 蕙静



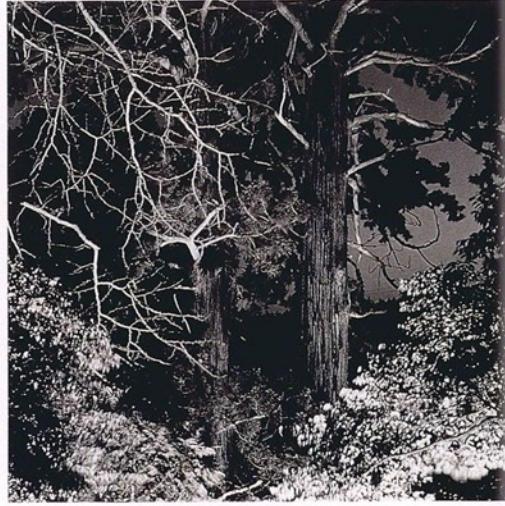
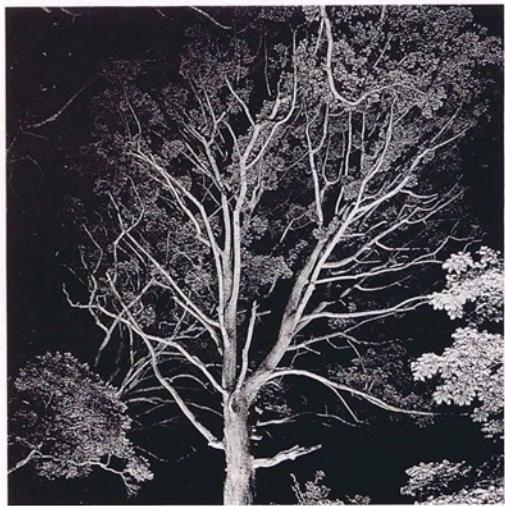
●特別奨励賞／写真『ジュウタン売りのウイグル老人の可愛いお孫さん』……小野 肇



●特別奨励賞／写真『窓辺』……渡辺シゲ子



●特別奨励賞／写真『山河暮色2枚組』……矢澤 晴夫



●特別奨励賞／写真『樹々の舞3枚組』……相沢 淳一

受賞作品目録 [工芸・書・写真 部門]

- 大 賞 高橋あづま 工芸『遙かなる亜熱帯』
- 準 大 賞 糴須海夏子 書『思いおく心の底の』
- 準 大 賞 山本潤一郎 写真『霧笛の港町』(3枚組)
- 特 選 人見啓一 工芸『彩泥鉢』
- 特 選 鎌田格処 書『李長吉詩』
- 特 選 古郡和敏 写真『華の舞』(3枚組)
- 美術奨学会賞 沢口信子 工芸『秋芳』
- 美術奨学会賞 亀井ひでみ 工芸『小さき華』
- 美術奨学会賞 八重森千賀 工芸『35年のあかし』
- 美術奨学会賞 落合正峰 書『飲酒』
- 美術奨学会賞 黒田香影 書『万葉集』
- 美術奨学会賞 菊地華舟 書『高青邱の詩』
- 美術奨学会賞 中川英治 写真『夕映えの山』
- 美術奨学会賞 岩下美代子 写真『暁の調教』
- 美術奨学会賞 村山 章 写真『鱈・君臨』(2枚組)
- 美術奨学会賞 福井 清 写真『祭り日の雨』(3枚組)
- 特別奨励賞 岩崎忠夫 工芸『乾漆変わり塗り盛鉢』
- 特別奨励賞 堀江明子 工芸『Lip』

- 特別奨励賞 中野幸男 工芸『WARP II』
- 特別奨励賞 佐藤秋翠 書『万葉旅の歌』
- 特別奨励賞 桜敷東石 書『鹿』
- 特別奨励賞 横山蕙静 書『かさね(曾良)』
- 特別奨励賞 渡辺シゲ子 写真『窓辺』
- 特別奨励賞 小野 肇 写真『ジュウタン売りのウイグル老人の可愛いお孫さん』
- 特別奨励賞 矢澤晴夫 写真『山河暮色』(2枚組)
- 特別奨励賞 相沢淳一 写真『樹々の舞』(3枚組)

美術奨学会賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として設立された財団法人神奈川県美術奨学会から、神奈川県美術展に出品した優秀作案に給付される奨学金です。
特別奨励賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として財はまぐん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される賞です。

入選作品目録

[工芸]

砂 崑 瞳 子 「ジュピター」
山 田 秀 雄 「流回」
小 川 祐 子 「高台両面亀甲」
建 部 敏 枝 「喫煙(パイプ)」
山 田 悅 子 「山鳥群(型染)」
福 岡 幸 基 「グラヴィール芍薬文ランプ」
鈴 木 義 之 「クリスタル大鉢・中鉢 組」
鈴 木 義 之 「クルystal花器 組」
中 津 川 和 子 「粲」
村 岡 由 美 子 「静かなる時空」
平 野 朱 美 「回紅」
平 野 朱 美 「化石の夢」
桑 原 平 治 「深鉢」
清 村 草 女 「伊豆の海」
五 味 彦 一 「白釉花器」
山 田 美 穂 子 「深海魚」
伊 藤 律 子 「かくれんぼ」
村 井 恵 美 子 「夕ぐれ」
亀 井 ひ で み 「七日の月」
笠 野 百 合 子 「春陽に目ざめる霧降りの滝
(平塚八景より)」
小 泉 喜 久 子 「流れ」
山 口 浩 二 「かたらい(2個組)」
ギ ル メ ット・オーゼル プラ 「200年祭の詩」
齋 藤 幸 江 「遊 '90」
並 木 昭 代 「昼下がりの港」
岡 達 夫 「銀鑄造獅子頭藤杖阿吽一対」
島 幸 子 「憧憬」
上 村 清 子 「青い哲(皮革容器)」
石 川 節 子 「灯影」
永 田 一 輝 「光(花器)」

高 橋 新 六 「刷毛目象嵌大皿」
近 野 久 子 「律」
近 野 久 子 「木枯し」
石 丸 伸 子 「茗荷とこぶし(帯)」
吉 原 博 万 「辰砂長筒」
遠 藤 信 也 「鍛銅銀象嵌菓子器」
市 原 富 士 子 「ジュウリー ルチルコーツ」
金 子 信 子 「タピストリー・港(皮革)」
五 味 仍 枝 「草紋」
飯 島 克 己 「紅葉硯箱」
飯 島 克 己 「手ぐり菊香合」
遠 藤 幸 子 「ベルサイユの窓」
大 場 茂 男 「飛翔(鎌倉彫)」
安 村 欣 三 「飴釉樂茶碗」
中 村 昌 子 「蜘蛛の巣文コンポート」
中 村 昌 子 「水玉文コンポート」
木 村 隆 男 「備前大壺」
植 草 信 次 郎 「油滴天目茶碗」
高 野 聖 子 「夢いっぱい」
八 木 橋 芙 美 子 「光の中に(乾漆器)」
八 木 橋 芙 美 子 「春宴」
鈴 木 健 「大鉢」
林 亘 「湧」
佐 藤 雅 一 郎 「若田硯(雲龍)」
雨 森 千 代 子 「こぎん」
相 原 弥 「響」
原 茂 一 「灰釉壺」
島 村 信 一 「海」
多々内都子 「韻像」
歌 田 輝 雄 「連山」
石 田 晖 忠 「(短冊箱)春の流れ」

大西節子 「流れの中で—」
角村治城 「連珠手紺色濃淡灰釉壺」
多賀ちか 「南太平洋」
吉川創雲 「牡丹(鉢)」
平賀妙子 「銀彩波調紋器」
佐々木達行 「叩き壺」
村主 武 「色粘土練り込み壺」
谷田部君江 「花の詩」
波多野安希 「天河」
鈴木亘 「練上焼／瓶」
工藤直 「Sky scraper」
本田敏晴 「GENTLEMAN」
魚見一子 「釉像嵌口縁繩編飾大壺」
足立治男 「Wing 90」
金子将之 「細波(練上壺)」
咲本征一郎 「朝の雲海」
小野寺和子 「やなぎ(着物刺繡)」
中村良哉 「秋望(乾漆大鉢)」
倉田俊一 「栓造稜線小窓」
太田美佐枝 「花野」
長谷川美知子 「焼／花器」
大塚正 「茶葉末釉掛分組鉢」
瀬戸毅己 「ロクロ変形長皿」
広瀬祐見 「青い流水」
田中良 「White-Variation」
広瀬悦孝 「花鳥紋面取鉢」
小園敏樹 「薬研彫線文角皿」
河原瑠璃 「島の風II」
宮原二三子 「刺し子(はんてん)」
久野正雄 「都会の響」
宗像昭 「炭火壺」

横田敦 「作品90」
大木一与 「鼠志の花器」
吉田健二 「流紋掛分壺」
水越繁 「ある集積」
増田かよ子 「悠」
わた辺きょうこ 「椿文蓋物(有線七宝)」
梅田千晶 「やすらぎ」
南部泰子 「山と鳥(飾籠)」
中島京子 「波の子」
浜本洋子 「雪国の物語」
山下敦子 「春の詩」
村尾淳子 「彩漆研出文皿II」
羽生恵子 「二分割遊戯 No.1 No.2 No.3」
深堀君恵 「古代の詩」
服部純 「乾漆盛器」
栗原恒子 「さゝやき」
板本采李香 「贊歌」
田口三恵子 「香木の詩」
伊藤多喜子 「紫陽花の詩」
綱島和子 「睡る鳥」
細井基夫 「波紋」

[書]

原 龍児 「菊枕」
宮川 勝美 「生命の歌」
指旗 登美 「形と影」
安田 達子 「小諸なる古城のほとり」
大木 銀子 「街と家家との遠方」
大木 明子 「ぼくの鎌倉八景 夜の江の電」
石本 啓子 「太田水穂のうた」
丸尾久美子 「吉本ばななの小説より」
綿貫 吉野 「細見綾子の句」
小林 千幸 「吉行理恵の詩」
穂坂美代子 「晩秋」
野口 靖美 「カステラ」
東條 順子 「夏の日の歌」
高橋 秀栄 「知床旅情」
矢野波津美 「沈む日」
日守菜穂子 「五月の陽折」
石井 富代 「野菊」
福島 霞葉 「島崎藤村の詩」
澤田 剛明 「祭り雛子」
驚見奈保子 「丸山薫の詩「花の空想」」
八木 香葉 「加藤楸邨の句」
及川 節子 「びわ」
茂又 武子 「近代詩文(月の砂漠)」
高橋 良江 「きつつき」
馬場 虹苑 「田中冬二の詩」
廣川 心齋 「竹中郁の詩 断片」
武居 尚琴 「谷川俊太郎の詩「男の唄」」
滝澤 秀石 「島田芳文の詩「惜春譜」」
眞鍋 光子 「三好達治の詩「一葉舟」」
上村 仙石 「妙法蓮華經觀世音菩薩普門品
第25三歸依文 般若心経」

水野 裕子 「石原八束の句」
小泉 恵俊 「青い夜道」
久保田富美子 「枕草子」
井上 信子 「北原白秋の詩」
貫井 芙蓉 「清水比庵の歌 9首」
杉山 幽翠 「次北固山下」
福井 幽紅 「同王微君洞庭有懷(張謂)」
内山 幽蘭 「渡揚子江」
長山 哲子 「送友人」
今井 幽耿 「題松汀驛」
深松 耿翠 「王勃詩 滕王閣」
後藤 昌子 「伊州歌(一)」
河野 顯吾 「臨高台送黎拾遺(王維)」
仲田 万里 「晚望(白居易)」
青木 麻美 「牛瀑丹楓(釋顥常)」
山口 澄翠 「絶句杜甫」
齊藤 知樹 「望天門山(李白)」
木田 南岳 「白楽天詩」
神原 秋翠 「つれづれ草より」
黒坂 春香 「秋」
丸山 美津江 「草まくら」
木多 良子 「西行の歌」
清水 幸枝 「春すぎて」
松永 瑞子 「柴の戸を」
小田原星華 「梓弓」
古賀 桃允 「春すぎて夏きたるらし」
塩沢 驚州 「故郷」
三堀 桂郁 「定家十題百首より」
佐藤 俊惠 「深山辺」
平間 愛子 「香紙切臨」
片山 静苑 「李白詩」

金子如龍 「李白詩」
沓掛和絵 「雨と夕暮と」
府川香代 「かな百人一首」
入江正洲 「何遜詩」
伊藤青光 「有明」
芹澤八重子 「うちなびき 他9首」
佐藤青香 「夕月夜」
服部青昌 「晶子の歌」
山ノ井青暎 「天の原」
関口青霞 「日ぐらしの」
佐々木青苑 「三吉野」
石原信子 「百人一首(64~78)」
新井青谿 「紅樓院応制」
長尾雪永 「小倉山」
鈴木白鶯 「さくら」
嘉島宏艸 「唐詩二首」
吉本寿峰 「春宿左省」
野口春峰 「登岳陽樓」
鈴木美翠 「孟浩然「春曉」」
和氣清堂 「流夜郎贈辛判官」
山口清晞 「杜甫詩」
黒田杪嵒 「盧綸の詩」
江口龍路 「興従弟同下第出關」
三津木芝影 「李白詩」
小林清坡 「僧皎然詩二首」
河合瑞祥 「瓜園の詩 幷びに序」
小巻仙堂 「白樂天詩」
浜岡見雲 「杜甫詩」
横山芳穎 「杜甫詩二首」
大島謙介 「王昌齡詩」
大矢鳳城 「愛」

上遠野紅舟 「王昌齡詩」
中鉢都 「もみじ 紅葉」
御園順子 「ほとゝぎす」
斎藤紫香 「久方の」
折原妙子 「しぐれ」
橋本芳雪 「新古今和歌集二首」
平田十臥 「岑参詩」
荒井翠扇 「日東病僧」
山本花聲 「唐詩」
池上好子 「秋」
木下清華 「島木赤彦のうた」
大友粹谷 「何子朗詩「美人弄白日 灼灼當春牖」」
柴田李笙 「唐詩」
阿部紅雪 「王安石詩」
早瀬香谷 「黃山谷詩」
坂口みち子 「俳句四首」
八木澤桃華 「香紙切臨書」
大山青高 「千字文」
八十川悦子 「蓬莱にきかばや伊勢の初便り
他俳句四首」
宮崎葭瑤 「杜甫詩」
永田棹舟 「李白詩」
貴納萬魅 「黃庭堅詩」
増田溪雪 「梓弓」
長島正恵 「西本願寺三十六人集 齋宮集」
野頭莊雲 「陸游詩」
木下滔泉 「履道池上作」
池田莊春 「白居易詩」
田所寿泉 「池上閑吟」
内田昇 「題岳陽樓」
鈴木天鳴 「別元九後詠所懷」

中山愛泉.....「送王十八歸山寄題仙遊寺」
鈴木莊鶴.....「白居易詩」
田村圭子.....「白居易詩「客中月」」
若林花泉.....「唐詩「宿靈巖寺上院」」
神藤莊松.....「白居易詩」
小山莊雪.....「下邽感舊」
渢谷セツエ.....「洞庭玩月」
武田瞳処.....「李白詩」
柴岡明洞.....「許渾詩「洛陽城」他一首」
尾崎静鳳.....「文帝詩」
森草坡.....「蘇東坡詩」
谷口春泉.....「高青邱詩」
楠琴處.....「李白詩「秋巴陵に登り洞庭を望む」」
茂泉草処.....「李白詩「江上吟」」
長島露泉.....「蘇東坡詩」
立橋洋子.....「蘇東坡詩」
熊谷鷹泉.....「廬綸詩」
貝原積眞.....「張謂詩「喬林に贈る」」
前田啓春.....「蘇東坡詩「次韻王郎子立風雨有感」」
神東榮春.....「蘇軾詩「初秋寄子由」」
河合伸泉.....「良寬詩」
八木智代子.....「法華經普門品第25」
森俊行.....「千字文」
篠原圭苑.....「岑參詩」
中村蒼汀.....「蘇東坡詩」
新屋京子.....「王維詩」
徳久郁.....「歐陽修詩」
小川如泉.....「白居易詩」
高橋蘭徑.....「和歌あつめ」
松岡梅影.....「小鍛冶」
浅間秋蕙.....「蕪村句集より俳句一句と序文」

明石惠州.....「秋草におく白露の…他一首」
岡本蘇心.....「中村憲吉の歌「月の夜を…」」
秋重令子.....「山ねむる山のふもとに海ねむる」
伊藤啓子.....「夏 和歌二首」
松田松逢.....「与謝野晶子「紅の襟にはさめる…」」
立木紫絢.....「夏」
布野玉桃.....「良寛の歌」
弦間秀僊.....「古今和歌集 四季の歌」
山口桐里.....「万葉集より花の歌四首」
脇本晃華.....「古今和歌集」
三原和子.....「わが門の」
大久保矩子.....「川田順「山海経」より」
京都付近をよめる歌二首」
猿丸幸子.....「いしばしる」
中溝右暉.....「元好問詩」
石井右千.....「蘇東坡の詩」
岩土右紀.....「高青邱詩」
小川右佳.....「蘇東坡詩」
池瀧右耀.....「古詩「青青陵上柏」」
菱田右紫.....「蘇東坡詩「別歳」」
土屋右泉.....「高青邱詩」
高田右莎.....「蘇東坡詩」
松尾右翠.....「李賀詩」
菊島右雪.....「蘇東坡詩」
東山右徹.....「李賀詩」
杉浦右花.....「陸游詩」
井上右保.....「李賀詩」
長谷川右扇.....「元好問詩」
三村セツ子.....「蘇東坡詩」
渡辺悟竹.....「早秋山居」
木村晴雲.....「「登樓」杜甫」

井澤洋高 「岑参「登古鄴城」」
小上馬九堂 「杜甫「野望」」
門田可寿 「送子由使契舟」
藤原星汀 「杜甫詩「北征」」
茶木静萌 「錢起詩二首」
安部梅陽 「鄭審の詩」
和田静月 「于良史詩「春山月夜」」
米原保手 「杜甫詩」
山野景翠 「謝吳宗師惠墨」
横山蘭葉 「酬李瑞校書見贈」
中西貴照 「白居易詩」
山田恵茜 「白樂天詩」
佐藤竹石 「楊慎詩」
橋本抱葉 「詠懷古跡」
滝口伸葉 「謝新恩」
澄川舟芳 「李白詩」
矢田香芳 「蘇軾詩」
奥田栖芳 「魏徵詩」
長崎聖芳 「陶淵明詩」
樋口東茜 「李白詩「遊宴」」
増木萌寿 「蘇軾詩 七言絕句」
春山右湧 「邱爲詩」
木須青苑 「楊萬里詩」

[写真]

- 尾原芳子 「木目模様」
青木保親 「溪音」
青木保親 「朝の閃光」
小室 寛 「猫おどりの里」
堀坂和夫 「攻防(2枚組)」
安井博道 「ふゆび
冬日」
Kadzuoki Godzu 「Lady witch in the night」
戸塚吉久 「窓辺」
小室八千雄 「カナディアン ロッキー(2枚組)」
山田弥一 「きふね
貴船まつり・3」
橋本春男 「あづきぐも
暁雲」
藤井けん 「船のメッセージ(船体)B・C(2枚組)」
関口幸雄 「厳冬の富士」
小俣吉弘 「春の兆し」
岡田 貢 「横浜の日の出」
山崎 廣 「やつひがな
谷津干潟」
姫野日出夫 「PHOT POESY(空・風・炎)」
本間英夫 「ゆうれい
幽麗—ゆめみぐさ(2枚組)」
上石寿美雄 「流れ」
櫻木 進 「高尾の火渡祭り(点火)(清淨祓)」
石谷一郎 「彼のコート」
田中 亨 「ポートレート」
上原公平 「シャンシャンユ祭り」
田村亮一 「家族(4枚組)」
根本紀男 「KOINOBORI」
飯田由治 「数馬の里(2枚組)」
守谷 勇 「茜雲うねる」
加山邦輔 「ちょっと、リバーサイド・2」
田辺和郎 「カナガワ植物採集'90」(3枚組)」
奈良巖 「A TURNING POINT—水—」
勝俣晃男 「水鳥(2枚組)」
- 澤田英雄 「処々全真(2枚組)」
永田恵遠 「オアシスA.C(2枚組)」
北島貞夫 「おふくろ」
長橋達也 「サムタイム(2枚組)」
簾田道雄 「大道芸まつり(野毛町)(3枚組)」

審査経過

工芸

今回、工芸部門への応募作品総数は240点で、昨年より5点ふえている。審査は午前10時から午後3時まで入念に行われた結果、121点を入選と決めたのだが、この50.4%の入選率からだけ見ると非常に緩選に思われる。しかし実際に審査に立会った私はかなりの厳選といった印象を受けたのである。これはつまり、この美術展が年を経るごとに応募作品の内容がますます充実し、レベルが高くなって来ている証拠なのであろう。

落選した作品の中には、作家にとって相当な自信作も含まれていると思うが、そうしたものは、在来のものを模倣してしかも力量の劣っているもの、或は、時代感覚にあまりにも無頓着過ぎるといったものである。

特筆すべきは、工芸部門の高橋あづまさん（32歳）作「遙かなる亜熱帯」が「大賞」を見事獲得したことである。彼女は昭和59年、多摩美術大学染織デザイン科を卒業、その後「織」の分野を専攻して現在は日本現代工芸展に出品している。この作品の見所は、ウールを太く紡ぎ、それを化学染料で濃紅色と濃紫色に染めてから、ボリュームのある鮮麗なタペストリーに織りあげている点にある。用を離れ、鑑賞本位の染色作品だが、実在感が強烈で、観る者を圧倒させるほどの迫力がある。

●搬入点数240点(191人) ●入選点数121点(114人)

次いで工芸部門の「特選」となったのは、人見啓一氏(41歳)作「彩泥鉢」である。彼は東京クラフト・デザイン研究所陶磁器科で学んでから陶芸家への道を志し、その後、京都や笠間で研鑽を積んでから神奈川県二宮の高木参平氏のもとでも学んでいる。そして12年ほど前から茅ヶ崎で独立自営をしている。この作品は、古代と現代とが融合する球体のオブジェともいいうべき陶芸であって、作者の個性と創意が充分に表現され、なおかつ謎い品格を醸し出している。胎土は五斗蒔と信楽の土を合わせ、成形は紐造りで、装飾には化粧土と石灰系の釉を版画的な手法で表わし、電気窯で酸化焼成しているという。現在、新工芸美術展に出品している。

なお、工芸部門の受賞者を列記すると、「美術奨学会賞」には○八重森千賀さん（57歳）作「35年のあかし」（皮の壁画）、○亀井ひでみさん（34歳）作「小さき華」（人形）、○沢口信子さん（55歳）作「秋芳」（ローケツ染着物）。「特別奨励賞」には○中野幸男氏（35歳）作「WARPII」（陶芸）、○堀江明子さん（23歳）作「Lip」（染色額）、○岩崎忠夫氏（62歳）作「乾漆変り塗り盛鉢」が受賞している。

いずれも皆、中央の展覧会に出品しても損色のない作品であり、各作家のこれからに精進と努力のほどを期待してやまない。

書

●搬入点数299点(299人) ●入選点数214点(214人)

本年は昨年より四十二点の出品増で例年の如く審査は厳正に行われました。

各部門の傾向については先ず漢字部門は全体の半数を占め、内容は前数年来さしたる変化はない様です。然し全般的には往時より技術的にはるかに向上しておりますが、やゝ平均化した感があります。然し中には師風を基調とし乍らも自己の感性を加味した作品もあり、これは良い傾向ですが、情緒的な作品づくりが目について、その根底となるしっかりしたもののが稀薄になっている様です。

仮名は本県展書部門の中で特に近年充実した部門でまことに喜ばしい。その内容も年々充足したものが展開されております。本年の作品については大字仮名作品が稍肥満な線が目につきました。もっとキリッとした線質が望まれます。

近代詩文書作品はやゝ類型化が感じられました。これは出品階層が同一団体なので止むを得ないと思われますが、それでも表現の多様性をふまえて斬新な表現の試行をこころみたいし、具体的には書表現の重要な潤滑のコントラスト、特にニジミの効果等を考えたい。

以上全般的な概評ですが入賞作品の二、三については近代詩文書の檜須海夏子君の作品は、現代展開されている所謂調和体のスタイルですが明るい感じが宜しい。鎌田恵処君の漢字作品は師風を根底としながらもそこから別の趣を展開して文人的な風韻が漾ります。落合正峰君の漢字作品は、濃墨を駆使して技術的にも高いものがあります。

本県展も既に四分の一世紀を経過して今日を迎えるのですが、初期の公募展を経て現在審査員、実行委員等で活躍されている方を見るにつけ将に今昔の感があります。どうか、今後共、本県展の書部門公募の方は十全の意を配して望まれんことを希望します。

殿村 藍田

写真

●搬入点数178(102人) ●入選点数74点(45人)

昨年にくらべ、作品のレベルは上昇した。応募数は足ぶみだが、質の向上は欣ぶべきことだ。コンクールというものは、限りなく向上を促進させる仕組みであるから、応募作家の各位には、常に躍進しなければならない宿命を自覚されたい。

今回は、ベテランの山本潤一郎の「霧笛の港町」が、準大賞の金的を射とめた。霧笛の情緒は、ヨコハマの好テーマの一つだが、それをペイブリッヂの周辺の新名所を生かして表現できた。古郡和敏の特選「華の舞」は、洋舞のトレーニングの3態が清新だ。モノクロームのよさをだした。中川英治「夕映の山」は、枯葉の前景がカラー効果を発揮して、主題の高峰がくっきりと描かれている。暗い山の写真が多いとき、からっと明るい感覚が好ましい。岩下美代子「暁の調教」は、払暁に馬の宿舎から競馬場へ行進する状況を撮影した、珍しい作品だ。勝負の世界のきびしさがでている。村山章「鱈・君臨」は、鱈という魚の独特な形の面白さを、全面的に表現した。ユーモアのあるのがいい。福井清「祭り日の雨」。雨の日の祭、遠足、運動会ではよく傑作が撮影される。この作品は、その典型である。作者の努力をかう。

渡辺シゲ子「窓辺」は、静物の写真のいいものは少ないので、窓辺にカクテルグラスに挿した花の構成は、オーソドックスだが、堂々としているのがいい。こうした展覧会では静物があると、目がやすまる。小野肇「ジュータン売りのウイグル老人」は、アジアの地の果てウルムチの、人情味あふれた情景が素晴らしい。外国の珍しい風景や事物を紹介する写真も肝要だが、その土地その土地の人情をとらえた作品が見たい。これが日本の国際感覚の展開に役立つのだ。矢澤晴夫「山河暮色」は、地味な山河の作品だが、独自な風趣がある。今どき珍しい火見櫓と電柱の影が走っているのが、いいアクセントになっている。相沢淳一「樹々の舞」は、花木のある美しい風景が多いなかで、樹々がおい繁る風景は、自然に対する敬虔な作者の思いが、滲みでている。

奥村 泰宏

大賞受賞者

第1回 昭和40年度 大森 運夫『九十九里』日本画

第2回 41年度 廣瀬 義男『作品I』洋画

第3回 42年度 垣内 治雄『坐る』彫刻

第4回 43年度 川村 直子『'69-A・'69-B』洋画

第5回 44年度 山井イク夫『Lady 70-1・2』立体造形

第6回 45年度 伊藤 彰『天涯巡礼』日本画

大久保利閏『Straw』工芸

西川 万象『盧子諒詩』書

加賀谷武男『にっぽん NONSENSE ZONE』写真

第7回 46年度 中西新太郎『落日』洋画

島津碧嵒『寒山詩』書

大谷 正夫『師ミス・サンダー(フェリス女学院)』写真

第8回 47年度 佐々木英夫『人間の風景1・2』版画

林 良達『騎士』工芸

第9回 48年度 河原 明『蜻蛉』彫刻

石川充宏『Girl in chair』工芸

第10回 49年度 大山 鎮『語り』日本画

第11回 50年度 鎌田恵子『Lost my way』工芸

第12回 51年度 泉谷淑夫『愁傷のモニュメント』洋画

第13回 52年度 井上 麦『黒の女-'77』彫刻

第14回 53年度 坂田一之『MIRROR』立体造形

第15回 54年度 前本利彦『暗い部屋I・II』日本画

川口流坡『菅原道真詩』書

第16回 昭和55年度 和久井Who『HANGING』立体造形

市原欣一『ふるさと』写真

第17回 56年度 坂井彰夫『SEISHO』彫刻

高木参平『BODY』工芸

第18回 57年度 小原正彦『冬の木』洋画

井上隆敏『イグナドバ選手』写真

第19回 58年度 井上 麦『土の系譜』彫刻

茶木静谷『竹囲松影』書

第20回 59年度 東谷武美『日蝕F』版画

西 雅秋『CASTING VIEWPOINT』野外彫刻

林 巨『クリスタル大鉢“洞”』工芸

第21回 60年度 鶴見厚子『夢の質感』洋画

石渡四郎『硫黄島の再会』写真

第22回 61年度 会田富二男『駆けゆく母子像』彫刻

浜本艸舟『良寛詩』書

第23回 62年度 高橋洋子『WAVE(BLUE FENCE)』立体造形

森山可余『俳句(原石鼎)』書

第24回 63年度 三枝孝司『複製された場所』版画

菅間ゆみい『夢印象』工芸

第25回 平成元年度 セツ・スズキ『アンタニアワカルメ』彫刻

片岡順一『大気現象』3枚組 写真

第26回 2年度 山本靖久『時の化石—豊沃のかたち』洋画

高橋あづま『遙かなる亜熱帯』工芸



第26回神奈川県美術展 関係者名簿

顧問

小倉遊亀
斎藤義重
圓鍔勝三
蓮田脩吾郎
殿村藍田
比田井南谷

委員会委員

委員長 上野 豊
副委員長 李家正基

神戸由雄
菅原寿雄
匠秀夫
土屋利保
吉田耕三
柳生不二雄
弦田平八郎
加藤東一
國領經一郎
斎藤壽一
井上信道
斎藤義重
永井鐵太郎
殿村藍田
奥村泰宏
中原佑介

大賞・準大賞選考委員

日本画・洋画・版画
彫刻・立体造形
片岡球子
弦田平八郎
國領經一郎
中原佑介
斎藤壽一
匠秀夫
井上信道
長江録
斎藤義重
針生一郎

工芸・書・写真
永井鐵太郎
吉田耕三
菅原寿雄
殿村藍田
奥村泰宏
岡井毅

審査員

日本画

片岡球子
近藤弘明
鈴木竹柏
弦田平八郎

洋画

國領經郎
酒井忠康
勝呂忠忠
土井俊泰
中原佑介
宮崎進

版画

磯見輝夫
柄澤齊
北川健次
斎藤壽一
匠秀夫

彫刻

井上信道
井上武吉
長江録弥
柳生不二雄

立体造形

海老塚耕一
斎藤義重
鈴木明
針生一郎

工芸

飯野啓三
江成房子
岡村康子
小山岑一
篠和子
田島比呂子
永井鐵太郎
水野矯夫
吉田耕三

書

岩沢蕙堂
重田翠村
菅原寿雄
仙場右羊
高木幸子
渓口幽城
殿村藍田
吉田蘭処

写真

江島隆
岡井耀毅
奥村泰宏
常盤刀洋子
浜口タカシ

日本画

浅見信夫
◎大山鎮能
島和明

洋画

石田茂嗣
◎白鳥三郎
鈴木雪子
松野俊雄
吉崎道治

版画

◎岡本よしみ
杉山一夫
日向野桂子

彫刻

会田富二男
◎井上麦
河原明

立体造形

井上しげ子
鈴木豊男子
◎羽生真

工芸

市原富士子
勝文彦
柴崎信太郎
高木參平
坪内君子
永井ひとみ
◎南雲陽忠
尾留川忠子
安田律子

書

伊奈翠陽
◎大島嵒山
川口流坡
四宮撫琴
茶木靜谷
船本芳雲

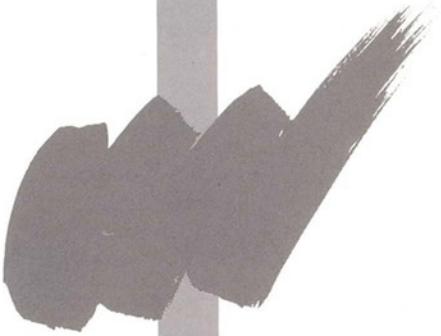
写真

阿部夕モツ
篠崎明弘
◎鈴木健夫
高橋勤
中島倍三
三井文一
吉田健吉郎

実行委員

◎は実行委員長

ごあんない



世界の名画と出逢える、そごう美術館。

そごう美術館は、国内はもとより世界中から、名作、名画が集まる美術館です。旅先で出逢った景色の美しさに感銘を覚えるように、豊かな芸術は人々に大きな感動を与えてくれます。エキゾチックな歴史と物語が現代に調和するヨコハマの本格的美術館——そごう美術館へ、あなたもいちどお越しください。

'90 秋・冬の主な展覧会予定

そごう美術館開館5周年記念〔神奈川芸術祭参加〕
19世紀フランス美術の光彩
アルゼンチン国立美術館展
■10月3日(水)→11月11日(日)



マネ「驚いたニンフ」1861年

そごう美術館開館5周年記念
印象派を中心とした
サンパウロ美術館展
■11月14日(水)→12月11日(火)



ルノワール「ばら色と青色の少女たち」1881年

再興 第75回 院展

■12月14日(金)→29日(土)

最終日は5時閉館

横浜駅東口・横浜そごう6階

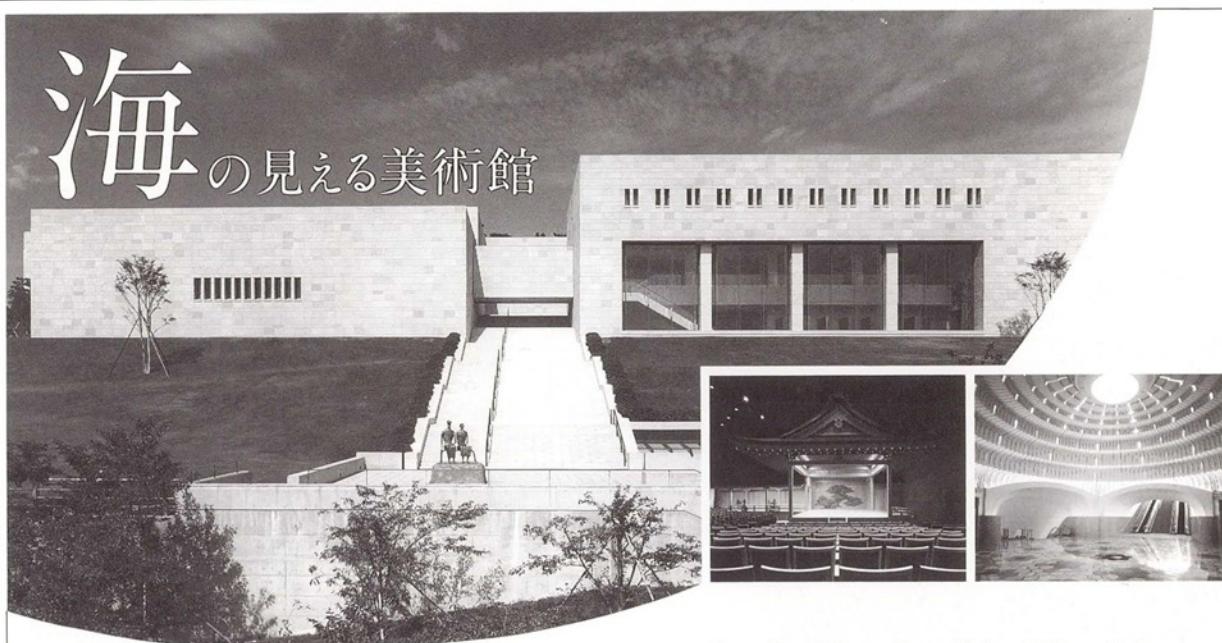
開館時間：午前10時～午後7時（入館は閉館の30分前まで）休館日：横浜そごうの休日に準ずる

財団法人

そごう美術館

〒220 横浜市西区高島2-18-1 TEL.(045)465-2361

海の見える美術館



開館／9:30AM～4:00PM（入館は3:30PMまで）

休館／毎週木曜日（祝日は開館）

●熱海駅よりバス④番のりばMOA美術館行

MOA美術館

住所／熱海市桃山町26-2 TEL(0557)84-2511



Modern and

Contemporary Art



神奈川県美術展受賞作家シリーズ

Sairin Gallery

●常設・企画画廊

●オープン・スペース

壁面延長(A)=27.00m

// (B)=18.30m

天井高=2.70m

面積(床ACフロア)(A)=45.70m²

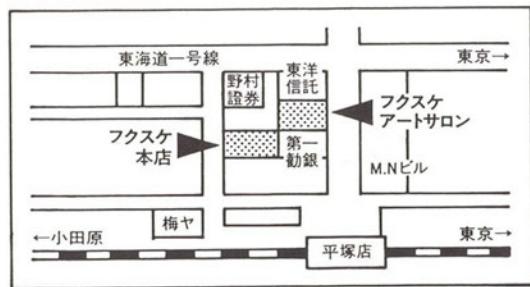
// (B)=25.00m²

1日(A)¥33,000 (B)¥22,000 (観賞制有り)

〒231 横浜市中区日本大通60(朝日生命ビル1F) ☎ 045(651)2524



湘南の文化を
支えて20年。
●企画展
●貸画廊
御相談下さい。



油絵・日本画・掛軸・扁額・工芸美術品・置物・アクセサリー・画材



企 画
貸画廊

☎0463(21)2303

☎0463(21)0250

☎0463(34)6738

本 店：平塚市紅谷町2-9
画 材 部：(ホルベイン画材特約店) 本店3F
アートサロン店：平塚市紅谷町2-18
平 塚 西 店：(平塚ダイクマ店)

抱きしめたい瞬間ときがあります。



1990 SEPTEMBER
PM1:26
MINATO NO MIERU OKA PARK

The DIAMOND
YOKOHAMA

10th Anniversary

光
が
變
わ
る。



PORTA
横浜駅東口地下街

- 営業時間 A.M.10:00～P.M.8:30(飲食店/A.M.11:00～P.M.10:00)
- 駐車サービス 地下2階大駐車場500台収容。(1時間無料駐車券)1店につき2,000円以上お買上げの方にプレゼント。
- TAXI 東口地下タクシー乗り場がポルタに直結。

「横浜」が、誇りです。

横浜タカシマヤオリジナル
横浜俱楽部

横浜は、いつの時代も情報発信地。

開港以来、いつの時代にも新しい情報の発信地であり続ける国際都市、横浜。

横浜タカシマヤのオリジナルブランド「横浜俱楽部」は、この独特の歴史と文化に磨かれた、しゃれた「横浜テイスト」をイメージして生まれました。

洗練されたセンスとクオリティが光る逸品を、お届けします。



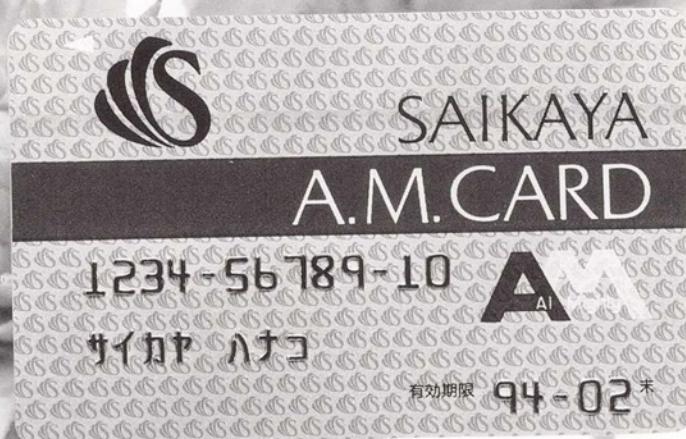
(紳士・婦人衣料洋品、時計、バッグ、タオル、
寝具、ステーショナリー、食品、ウイスキー、コーヒー)



Takashimaya • YOKOHAMA

横浜駅西口/TEL(045)311-5111<水曜定休>

あしたの素敵に出会えます。
新しいA.M.カード。



A.M.CASHING

専用CD機で分割払いOK!

さいか屋各店の専用CD機で、暗証番号と
金額を押すだけで、ご利用いただけます。

専用CD機設置場所

- 川崎店=8階
- 横須賀店=大通り館3階
- 藤沢店=1階

A.M.SHOPPING

お支払いは3つのコース

- ①1回払いー5%優待割引の特典
- ②リボルビング払いー指定のコースによる分割払い
- ③ボーナスー括払いー3%優待割引の特典

お申し込み・お問い合わせは
クレジットカウンターまで

- 川崎店=5階
- 横須賀店=大通り館5階
- 藤沢店=5階



さいか屋

わたしを語る旅、はじまる。

自分を深める秋
オシャレも深まります。
お気に入りの服にこころを包んで
美しい季節の中を 風といっしょに歩きます

ディミトリードンナ 本館3階

Dimitri Donna

NEW YORK - MILANO

 YOKOHAMA
Matsuzakaya

水曜定休 ☎045(261)2121



ここでの休息地。

Azalea

NEW FASHIONABLE AND REFINED ZONE FOR YOU.
OPEN : 10A.M.-8:30P.M.(RESTAURANT & TEAROOM OPEN : 11A.M.-10P.M.)
26-2 EKIMA EHONCHOU KAWASAKI-KU,
KAWASAKI JAPAN. PHONE : 044(211)3871

★営業時間ご案内：午前10時～午後8時30分 レストラン、喫茶は午前11時～午後10時

★一部のファーストフード、喫茶は午前8時～午後10時

JR川崎駅前地下街アゼリア

〒210 川崎市川崎区駅前本町26番地2 TEL. 044(211)3871(大代表)

★駐車場：380台収容(年中無休)

秋。どんな私が似合うんでしょう。

装う私。料理する私。スポーツする私。

文化にふれる私。もう、じつとなんかしていられません。

私は秋に欲ばりです。

わたししが湧きでる、
秋です。



ダックシティ



厚木

本厚木駅東口

TEL (0462)23-5311㈹

こみや

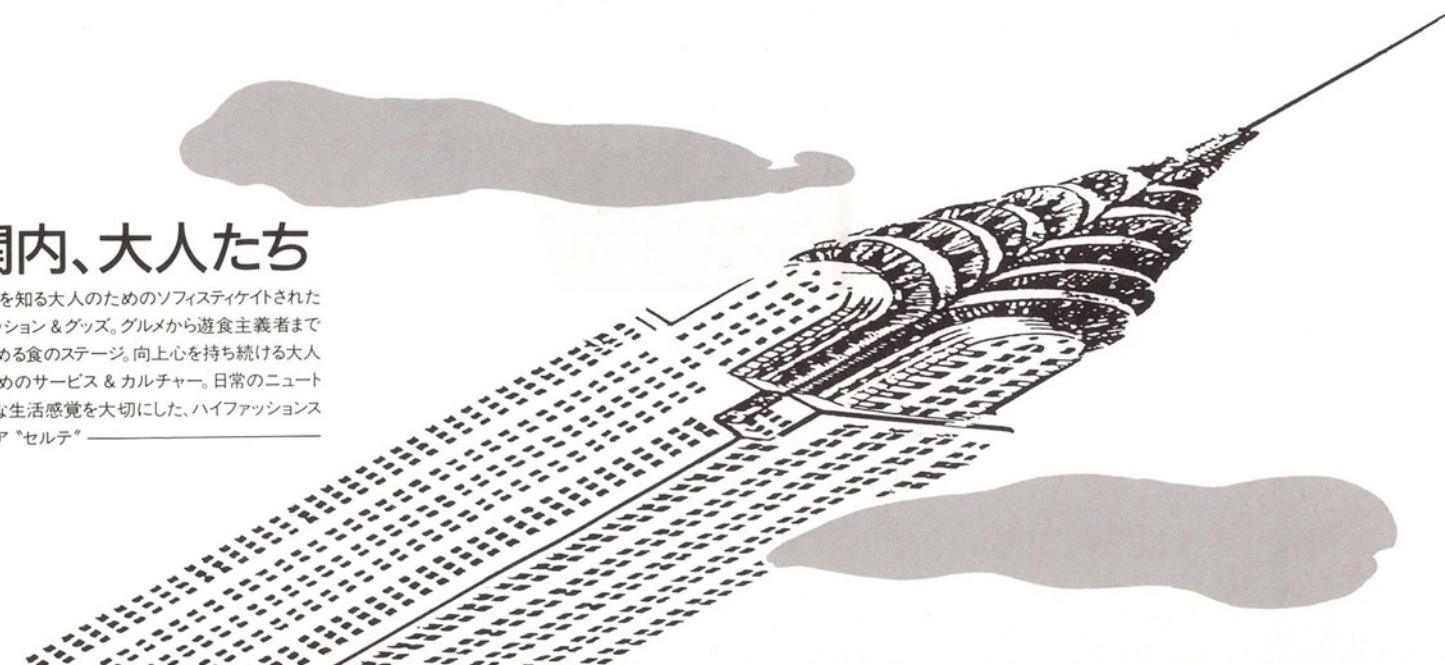
川崎駅前

TEL (044)211-2111㈹

YOKOHAMA HIGH FASHION SQUARE

関内、大人たち

本物を知る大ためのソフィスティケイトされた
ファッション & グッズ。グルメから遊食主義者まで
楽しめる食のステージ。向上心を持ち続ける大人
のためのサービス & カルチャー。日常のニュート
ラルな生活感覚を大切にした、ハイファッショング
スクエア "セルテ"



ハイファッショングスクエア
CERTE

〒231 横浜市中区真砂町3-33 (JR・地下鉄関内駅前)
TEL 045-651-1431代

プロのために、
プロの品揃えです。



《デザイン・製図・画材コーナー》

- 文具館<3F・4F>……………TEL.(045)662-1231 ●藤沢店<名店ビル5F>……………TEL.(0466)26-1411
- 横浜駅東口ルミネ店<5F>………TEL.(045)453-0811 ●厚木店<3F>……………TEL.(0462)23-4111

横浜馬車道 有隣堂ギャラリー (有隣堂文具館7F)

《個展・グループ展》申込承り中 ※お申込み・お問い合わせ…有隣堂宣伝課 ☎(045)261-1245

UCHUDO

●洋画材料●デザイン用品●額縁

あなたの創作欲を満たす品ぞろえが自慢です。



ALL OF ART MATERIAL

宇宙堂

横浜店 横浜ステーションビル・シャル 4 F TEL 045-311-2770

蒲田、仙台、千葉、津田沼、船橋、荻窪、静岡、松戸、他全15店舗

コダック・イマジカ KK プロサービス/関内

横浜のコダックファンの為のサービスステーションです。
エクタクロームも品質基準をクリアーしたQラボ仕上げ。
良い仕上りで速く……が実現、是非ご利用下さい。



横浜営業所
横浜市中区太田町4-47 コーワ太田町ビルB1
TEL: 045-664-1077



〔営業時間〕
(月～金) 9:00～19:00
(土) 9:00～18:00

コダック・イマジカ株式会社
コマーシャル営業部 横浜営業所

神奈川県指定標準工場

通産大臣賞、中小企業庁長官賞 東京通産局長賞受賞

情報力。

伝えるチカラ

毎日、ものすごくたくさんの情報が、めまぐるしく吐き出されている情報化社会。いかに鮮度の高い情報を、正確に、強いインパクトで伝えられるかが重要です。私たちは、さまざまな表現を使って、情報力、つまり伝えるチカラを鍛え、確かな手応えのあるコミュニケーションツールの創造に努めています。



販売促進・PRツール

当社は企画・デザインから印刷・納品まで一貫してお引き受けするトータルプロデューサー。ポスター、カタログ、チラシなど、販売促進や営業活動のためのツールの制作にあたり、常により効果の高い表現を開発し、高級美術印刷の力を存分に発揮します。

会社案内・営業案内

企画・デザイン・取材・編集・撮影など、鋭い感性をもったクリエイティブ力。そして先端技術を駆使した高水準の印刷力。これらを総合して、営業活動を促進する営業案内や、リクルート活動のための会社案内などに対するニーズにもお応えしています。

コンピュータによる文字情報処理

最適なソフトを開発して、データベースの構築やデータ処理、印刷を行う野毛印刷の情報処理技術。大量のデータを瞬時に検索、並べ替え、修正できるコンピュータの特性を十二分に活用して、時代が求める先端ニーズに的確にお応えしています。

カード時代に対応

テレホンカードやプリペイドカードなどをオリジナルデザインで、美しいカラー印刷。カラーの印刷技術で高い評価を受ける野毛印刷ならではの高品質、低価格、そしてスピード印刷で、カード時代に対応したカードづくりにお応えしています。

記念誌・自費出版

長い間培ってきた豊富な技術力とノウハウを生かして、記念誌、社史、団体史、寺史などの出版物の制作にあたり、企画・編集段階からお手伝いします。また、詩集や歌集、図録など、自費出版のニーズにもきめ細かい対応をお約束します。

その他いろいろ

企画デザインから始まって、各工程をそれぞれの専門スタッフが分担し、全体を当社独自の一貫システムで統合。品質、価格、納期などあらゆる面でご満足のゆく製品を、100余名のスタッフが自信をもってお届けしています。

株式会社

野毛印刷

本社／横浜市中区相生町5-79 〒231 ☎(045)681-0861
営業本部・工場／横浜市南区新川町1-2 〒232 ☎(045)252-2511㈹
東京営業所／東京都港区麻布台2-3-12 〒106 ☎(03)583-2679㈹

お問合せ、ご相談はお気軽に

営業企画本部

☎(045)252-2511

●お急ぎの原稿はファクシミリをご利用ください。

営業企画本部／Fax.(045)251-7216

東京営業所／Fax.(03)585-5974

印刷ショップ ☎(045)-641-4132
アトラス 中区相生町5丁目馬車道

企画デザイン ☎(045)-201-8263
ACB

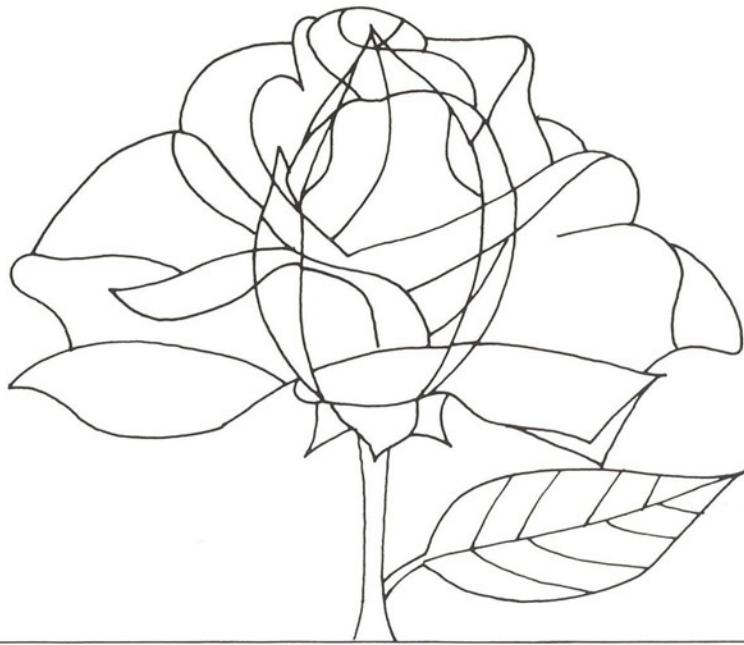
信頼と技術で美を包む。

世界をネットする輸送網、
世界でも一級と折紙つきの輸送技術、
深い知識と豊富な経験を積んだ
日通マンが取扱います。



日本通運(株)横浜北支店
☎ 045-521-2222

財団法人 神奈川県美術奨学会



■美術振興基金募集

当法人は、県内の美術振興と新人作家の発掘・育成を目的として昭和45年に設立、以後毎年「神奈川県美術展(神奈川県・神奈川県美術展委員会主催)」に出品された優秀作家に奨学金(美術奨学会費)を給付していますが、基金を増額し、更に意義ある奨学金といった篤志家の御寄付をお願いしております。

皆様方の御協力をお願い申し上げます。

なお、寄付金は、基金に繰り入れさせていただき、この基金の運用金(利子)から奨学金として給付されます。

■■■■■事務局(申込先) 横浜市中区日本大通1 県庁文化室内 ☎045-201-1111 内線3425 ■■■■■

発行・神奈川県美術展委員会

事務局：神奈川県県民部文化室

表紙デザイン・伊東 寿太郎

撮影・菊屋写真工房

本文デザイン・株式会社エイ・シー・ピー

制作・株式会社野毛印刷社

